Canon

EOS Kiss X80

EOS Kiss X80 (W)

使用説明書

使用説明書（PDFファイル）およびソフトウェアは、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4、315）。

J

はじめに

EOS Kiss X80 (W)は、有効画素数約1800万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 4+、高精度・高速9点AF、最高約3.0コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能、無線機能（Wi-Fi／NFC）を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（20～22ページ）、および『取り扱い上のご注意』（23～25ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

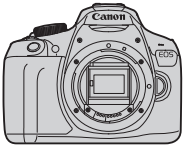
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

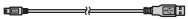


カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E10
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E10

ストラップ



インターフェースケーブル

※ 使用説明書については、次ページを参照してください。
※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（p.4）。
なお、レンズの使用説明書（PDF）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について

カメラ・無線機能 使用説明書（基本編）
冊子は、「基本編」です。より詳しい使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

1 使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
  - ・カメラ使用説明書
  - ・無線機能 使用説明書
  - ・カメラ・無線機能 使用説明書（基本編）
    ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/index.html
  - ・レンズ使用説明書
    ➡ http://cweb.canon.jp/manual/ef/index.html
  - ・ソフトウェア使用説明書
    ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

2 使用説明書（PDFファイル）を見る

- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

ソフトウェアは、キヤノンのホームページからダウンロードしてお使いください（p.315）。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします**（p.52）。

・SDメモリーカード
・SDHCメモリーカード
・SDXCメモリーカード

UHS-I対応のカードも使えますが、このカメラはUHS-I規格に対応していないため、書き込み/読み取り速度は最高でもSDスピードクラス10相当になります。

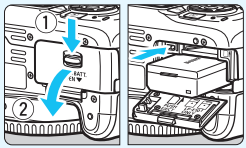
動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS 6」以上のカードを使用してください。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

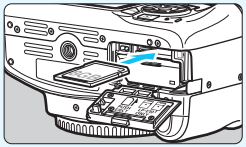
本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

すぐ撮影するには

1 

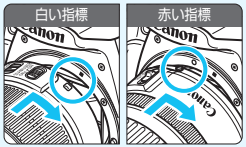
電池（バッテリー）を入れる（p.36）

- 電池の充電方法については 34 ページを参照してください。

2 

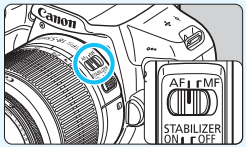
カードを入れる（p.36）

- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

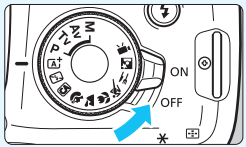
3 

レンズを取り付ける（p.44）

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

4 

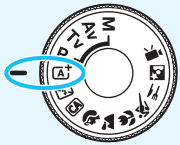
レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.44）

5 

電源スイッチを〈ON〉にする（p.39）

- 液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、41 ページを参照してください。

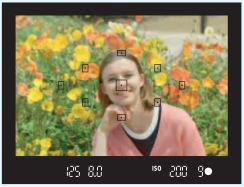
6



モードダイヤルを〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.58）

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

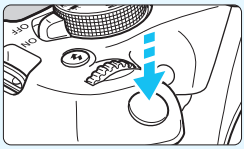
7



ピントを合わせる（p.47）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- 必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8



撮影する（p.47）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.83）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.139）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.83）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.230）を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈 〉 ：電子ダイヤルを示しています。

〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉 ：〈 〉十字キーの上下左右ボタンを示しています。

〈SET〉 ：設定ボタンを示しています。

⏱4／⏱6／⏱10／⏱16 ：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ約4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU ：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 ：ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.30）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

？ ：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（p.39）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II レンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	33
2	かんたん撮影と画像確認	57
3	カメラまかせから一歩進んだ撮影	85
4	もっとカメラを使いこなす	107
5	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	139
6	動画を撮影する	159
7	知っていると便利な機能	183
8	画像の再生	207
9	撮影した画像を加工する	235
10	画像の印刷	241
11	カメラの機能を自分好みに変更する	257
12	資料	269
13	ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む	313

やりたいこと目次

撮影

- カメラまかせで簡単に撮影したい → p.57〜82（かんたん撮影ゾーン）
- 連続して写真を撮りたい → p.102（連続撮影）
- 自分も写真に写りたい（記念写真） → p.103（セルフタイマー）
- 動きを止めた写真を撮りたい
- 流動感のある写真を撮りたい
  → p.108（**Tv** シャッター優先AE）
- 背景をぼかした写真を撮りたい
- 背景まで鮮明な写真を撮りたい
  → p.64（CA クリエイティブオート）
  p.110（**Av** 絞り優先AE）
- 写真の明るさ（露出）を調整したい → p.116（露出補正）
- 暗いところで撮影したい → p.58、104（ストロボ撮影）
  p.92（ISO感度設定）
- ストロボ禁止の場所で撮影したい → p.63（ストロボ発光禁止）
  p.75（ストロボ発光禁止）
- 花火を撮影したい → p.114（バルブ撮影）
- 液晶モニターを見ながら撮りたい → p.139（ライブビュー撮影）
- 動画を撮りたい → p.159（動画撮影）

画質

- 撮るものに合った仕上がりにしたい → p.95（ピクチャースタイル選択）
- 写真をあとで大きく印刷したい → p.88（L, L, RAW）

- たくさん写真を撮りたい → p.88（S1, S1, S2, S3）

ピント合わせ

- ピントを合わせる位置を変更したい → p.99（AFフレーム選択）
- 動いている被写体を撮影したい → p.70、98（AIサーボAF）

再生

- 写真をカメラで見たい → p.83（再生）
- 写真を素早く探したい → p.208（インデックス表示）
p.209（画像送り）
- お気に入り度を設定したい → p.212（レーティング）
- 大事な写真を誤って消さないようにしたい → p.228（プロテクト）
- 不要な写真を消したい → p.230（消去）
- 写真や動画を自動再生したい → p.222（スライドショー）
- 写真や動画をテレビで見たい → p.226（テレビ）
- 液晶モニターの明るさを調整したい → p.185（液晶モニターの明るさ）
- 写真に効果をつけたい → p.236（クリエイティブフィルター）

印刷

- 写真を簡単に印刷したい → p.241（ダイレクトプリント）

機能目次

電源

- 電池
  - ・充電 → p.34
  - ・入れ方/取り出し方 → p.36
  - ・電池残量 → p.40
- 家庭用電源 → p.270
- オートパワーオフ → p.39

カード

- 入れ方/取り出し方 → p.36
- カード初期化 → p.52
- カードなしレリーズ → p.184

レンズ

- 取り付け/取り外し → p.44
- ズーム → p.45

基本設定

- 視度調整 → p.46
- 言語 → p.43
- 日付/時刻/エリア → p.41
- 電子音 → p.184
- 液晶の消灯/点灯 → p.197
- 液晶の明るさ調整 → p.185

画像記録

- フォルダ作成／選択 → p.186
- 画像番号 → p.188

画質

- 記録画質 → p.88
- ピクチャースタイル → p.95
- ホワイトバランス → p.131
- 色空間 → p.137
- 画質向上機能
  - ・オートライティング オプティマイザ → p.123
  - ・レンズ周辺光量補正 → p.124
  - ・長秒時露光ノイズ低減 → p.262
  - ・高感度時ノイズ低減 → p.263
  - ・高輝度側・階調優先 → p.263

AF

- AF動作 → p.97
- AFフレーム選択 → p.99
- 手動ピント合わせ → p.101

ドライブ

- ドライブモード → p.28
- 連続撮影 → p.102
- セルフタイマー → p.103
- 連続撮影可能枚数 → p.90

撮影

- 撮影モード → p.30
- ISO感度 → p.92
- 機能ガイド → p.55
- バルブ → p.114
- 測光モード → p.115
- クイック設定 → p.48

露出

- 露出補正 → p.116
- AEB → p.118
- AEロック → p.120

ストロボ

- 内蔵ストロボ → p.104
  - ・調光補正 → p.117
  - ・FEロック → p.121
- 外部ストロボ → p.272
- ストロボ制御 → p.198

ライブビュー撮影

- ライブビュー撮影 → p.139
- ピント合わせの方式（AF方式） → p.148
- アスペクト比 → p.146
- グリッド → p.145
- クイック設定 → p.144

動画撮影

- 動画撮影 → p.159
- 録音 → p.178
- グリッド → p.179
- マニュアル露出 → p.162
- クイック設定 → p.167
- ビデオスナップ → p.170

再生

- 撮影直後の表示時間 → p.184
- 1枚表示 → p.83
- 撮影情報表示 → p.232
- インデックス表示 → p.208
- 画像送り（ジャンプ表示） → p.209
- 拡大 → p.210
- 回転 → p.211
- レーティング → p.212
- 動画再生 → p.218
- 動画の前後カット → p.220
- スライドショー → p.222
- テレビで見る → p.226
- プロテクト（保護） → p.228
- 消去 → p.230
- クイック設定 → p.214

画像加工

- クリエイティブフィルター → p.236
- リサイズ → p.239

印刷

- PictBridge → p.244
- 印刷指定（DPOF） → p.251
- フォトブック指定 → p.255

カスタマイズ

- カスタム機能（C.Fn） → p.258
- マイメニュー → p.267

ソフトウェア

- ソフトウェアスタートガイド → p.314
- ソフトウェア使用説明書 → p.316

無線機能

→ 無線機能 使用説明書

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書について 4
使用できるカードについて 5
すぐ撮影するには 6
本使用説明書の表記について 8
章目次 9
やりたいこと目次 10
機能目次 12
安全上のご注意 20
取り扱い上のご注意 23
各部の名称 26

1　撮影前の準備と操作の基本　33

電池を充電する 34
電池とカードを入れる／ 取り出す 36
電源を入れる 39
日付／時刻／エリアを設定する 41
表示言語を選ぶ 43
レンズを取り付ける／取り外す 44
撮影の基本操作 46
Q 撮影機能のクイック設定 48
MENU メニュー機能の操作と設定 50
カードを初期化する 52
液晶モニターの表示切り換え 54
機能ガイドについて 55

2 かんたん撮影と画像確認 57

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）....58
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）....61
ストロボが使えない場所で写す 63
クリエイティブオートで撮る 64
人物を写す 67
風景を写す 68
花や小物を大きく写す 69
動きのあるものを写す 70
料理を写す 71
夜景と人物を明るく写す 72
クイック設定について 74
雰囲気を選んで撮影する 76
明かりや状況にあわせて撮影する 80
画像を再生する 83

3 カメラまかせから一歩進んだ撮影 85

P: プログラム AE 撮影 86
記録画質を設定する 88
ISO: 明るさに応じて感度を変える（ISO 感度）....92
被写体に最適な画像特性を選ぶ（ピクチャースタイル）....95
AF: ピント合わせの動作を変える（AF 動作）....97
ピントを合わせる枠を選ぶ（AF フレーム）....99
ピントが合いにくい被写体 101
MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）....101
連続撮影する 102
セルフタイマー撮影 103
内蔵ストロボを使って撮る 104

4 もっとカメラを使いこなす 107

Tv: 被写体の動きを表現する 108
Av: ピントの合う範囲を変える 110
ピントの合う範囲を確認する 112
M: 露出を自分で決めて撮る 113
明るさの測り方を変える 115
自分の好みに明るさを調整する 116
明るさを自動的に変えて撮る 118
✳ 明るさを固定して撮る 120
✳ ストロボの発光量を固定して撮る 121
明るさ・コントラストを自動補正する（オートライティングオプティマイザ） 123
画像の四隅の光量不足を補正する 124
画像特性を自分の好みに調整する（ピクチャースタイル） 126
好みの画像特性を登録する（ピクチャースタイル） 129
WB: 明かりにあわせて撮影する（ホワイトバランス） 131
明かりに対する色あいを補正する 135
色の再現範囲を設定する（色空間） 137

5 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 139

液晶モニターを見ながら撮影する 140
撮影機能の設定 144
メニュー機能の設定 145
AF でピントを合わせる（AF 方式） 148
MF：手動でピントを合わせる 156

6 動画を撮影する 159

動画を撮影する 160
自動露出で撮影する 160
マニュアル露出で撮影する 162
撮影機能の設定 167
動画記録サイズの設定 168
ビデオスナップを撮影する 170
メニュー機能の設定 176

7 知っていると便利な機能 183

普段使う上で便利な機能 184
電子音が鳴らないようにする 184
カードの入れ忘れを防止する 184
撮影直後の画像表示時間を設定する 184
電源が切れるまでの時間を設定する 185
液晶モニターの明るさを調整する 185
フォルダの作成と選択 186
画像番号の付け方を設定する 188
著作権情報の設定 190
縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定 192
カメラの設定内容を確認する 193
カメラの機能設定を初期状態に戻す 194
液晶モニターの消灯 / 点灯の設定 197
撮影機能の設定状態の画面の色を変える 197
ストロボの機能を設定する 198
ゴミ消し情報を画像に付加する 202
手作業で撮像素子を清掃する 204

8 画像の再生 207

▶ 見たい画像を素早く探す 208
🔍 ／ 🔍 拡大して見る 210
回転させる 211
お気に入りのレベルを設定する 212
Q 再生時のクイック設定 214
撮った動画の楽しみ方 216
動画を再生する 218
動画の前後部分をカットする 220
自動再生する（スライドショー） 222
テレビで見る 226
保護する（プロテクト） 228
消去する 230
DISP. 撮影情報の内容 232

9 撮影した画像を加工する 235

画像にフィルター効果を付ける 236
JPEG 画像をリサイズする 239

10 画像の印刷 241

印刷の準備をする 242
印刷する 244
トリミング（印刷範囲）の設定 249
画像を印刷指定する／DPOF 251
印刷指定画像のダイレクトプリント 254
フォトブックにする画像を指定する 255

11 カメラの機能を自分好みに変更する 257

カスタム機能の設定方法 258
カスタム機能で変更できる内容 260
C.Fn I ：露出 260
C.Fn II ：画像 262
C.Fn III ：AF・ドライブ 264
C.Fn IV ：操作・その他 265
マイメニューを登録する 267

12 資料 269

家庭用電源を使う 270
リモートスイッチを使う 271
外部ストロボの使用について 272
Eye-Fi カードを使う 274
各撮影モードで設定できる機能一覧 276
システム図 278
メニュー機能一覧 280
故障かな？と思ったら 286
エラー表示 298
主な仕様 299

13 ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む 313

ソフトウェアスタートガイド 314
ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）のダウンロードと見かた 316
パソコンに画像を取り込む 317
索 引 319

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。

⚠警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などで内蔵ストロボやミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を別紙の修理お問合せ専用窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

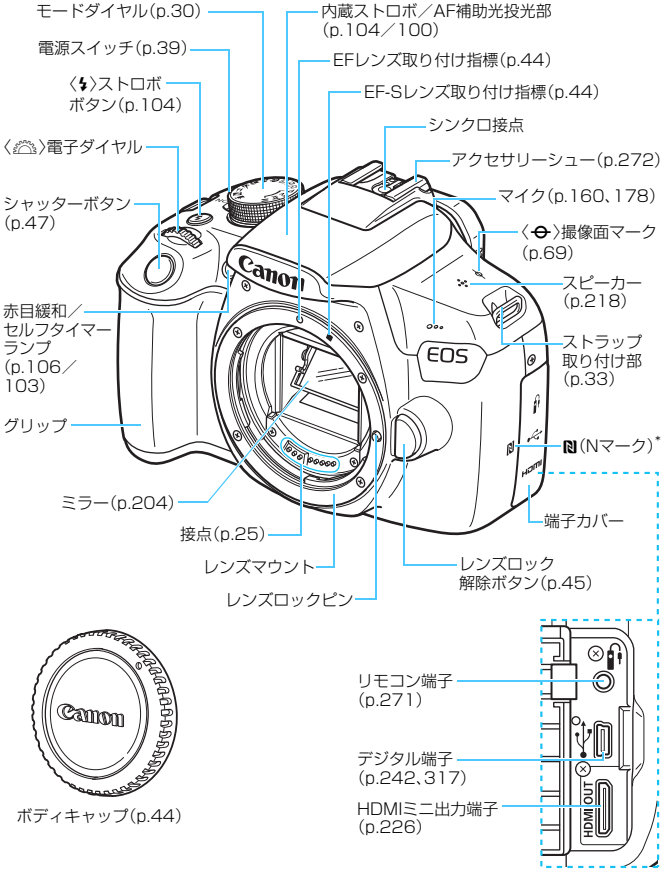
レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

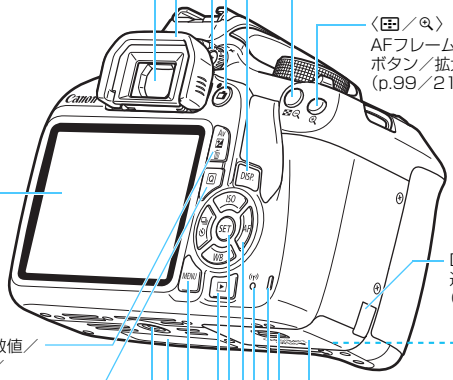
撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

各部の名称



* NFC機能を使用した無線接続時に使います。



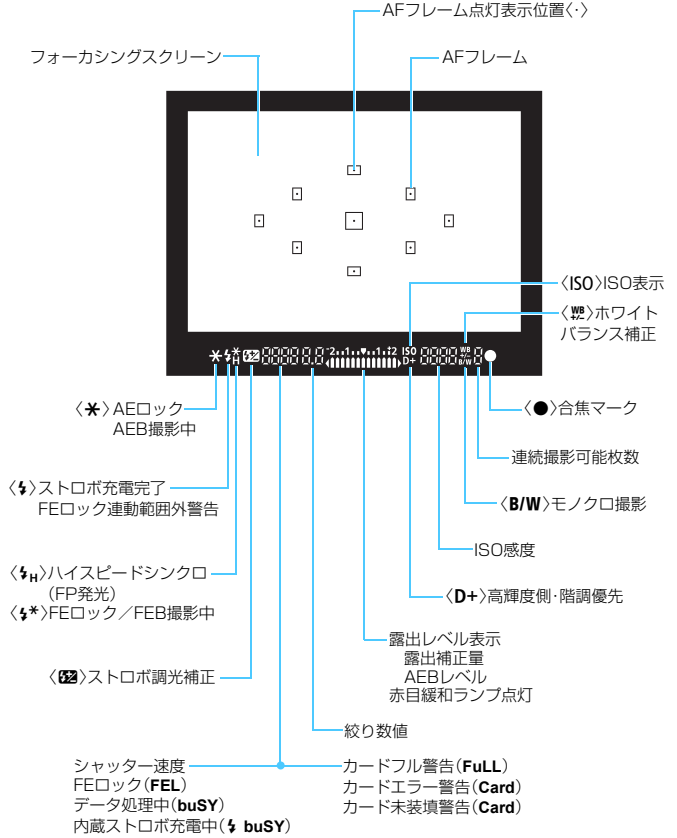
〈📷〉ライブビュー撮影／動画撮影ボタン（p.140／160）
視度調整つまみ（p.46）
アイカップ（p.271）
ファインダー接眼部
〈DISP.〉ディスプレイボタン（p.54、83、142、164、193）
〈✱／⊞🔍〉AEロック／FEロックボタン／インデックス／縮小ボタン（p.120／121／208／210、249）
〈⊞／🔍〉AFフレーム選択ボタン／拡大ボタン（p.99／210、249）
液晶モニター（p.50、185）
DCコード通し部（p.270）
〈Av☒／🗑〉絞り数値／露出補正ボタン／消去ボタン（p.113／116／230）
〈Q〉クイック設定ボタン（p.48）
三脚ねじ穴
シリアル番号
〈MENU〉メニューボタン（p.50）
〈▶〉再生ボタン（p.83）
〈SET〉設定ボタン（p.50）
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉：〈✥〉十字キー（p.50）
〈▲ ISO〉　ISO感度設定ボタン（p.92）
〈▼ WB〉　ホワイトバランス選択ボタン（p.131）
〈◀ ⧉／⏲〉　ドライブ/セルフタイマー選択ボタン（p.102～103）
〈▶ AF〉　AF動作選択ボタン（p.97）
カード/電池室ふた（p.36）
カード/電池室ふた開放レバー（p.36）
アクセスランプ（p.38）
〈((•))〉Wi-Fiランプ
カードスロット（p.36）
電池室（p.36）

撮影機能の設定状態（応用撮影ゾーン時／p.30）

- 電子ダイヤルガイド(p.107)
- 撮影モード
- 露出レベル表示
  - 露出補正量(p.116)
  - AEBレベル(p.118)
- ピクチャースタイル(p.95)
- AF動作(p.97)
  - **ONE SHOT**：ワンショットAF
  - **AI FOCUS**：AIフォーカスAF
  - **AI SERVO**：AIサーボAF
  - **MF**：マニュアルフォーカス
- クイック設定マーク(p.48、74)
- 電池残量(p.40)
- ホワイトバランス(p.131)
  - AWB オート(雰囲気優先)
  - AWBW オート(ホワイト優先)
  - 太陽光
  - 日陰
  - くもり
  - 白熱電球
  - 白色蛍光灯
  - ストロボ
  - マニュアル
- ドライブ/セルフタイマー(p.102～103)
  - 1枚撮影
  - 連続撮影
  - セルフタイマー：10秒
  - セルフタイマー：2秒
  - セルフタイマー：連続撮影
- シャッター速度
- 絞り数値
- オートライティングオプティマイザ(p.123)
- ISO感度(p.92)
- 高輝度側・階調優先(p.263)
- ストロボ調光補正(p.117)
- 外部ストロボ調光補正
- ストロボアップ(p.49)
- 記録画質(p.88)
  - L ラージ／ファイン
  - L ラージ／ノーマル
  - M ミドル／ファイン
  - M ミドル／ノーマル
  - S1 スモール1 ／ファイン
  - S1 スモール1 ／ノーマル
  - S2 スモール2(ファイン)
  - S3 スモール3(ファイン)
  - RAW+L ロウ+ラージ／ファイン
  - RAW ロウ
- 撮影可能枚数
- WBブラケティング時の撮影可能枚数
- セルフタイマー作動表示
- ホワイトバランス補正(p.135)
- WBブラケティング(p.136)
- 測光モード(p.115)
  - 評価測光
  - 部分測光
  - 中央部重点平均測光
- GPS接続表示(p.282)
- Eye-Fi通信状態(p.274)

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示



状況に応じた部分のみ表示されます。

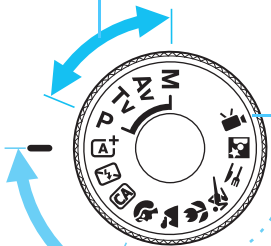
モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンと、動画撮影モードがあります。

応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラムAE（p.86）
Tv　：シャッター優先AE（p.108）
Av　：絞り優先AE（p.110）
M　：マニュアル露出（p.113）



かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

シーンインテリジェントオート（p.58）
ストロボ発光禁止（p.63）
クリエイティブオート（p.64）

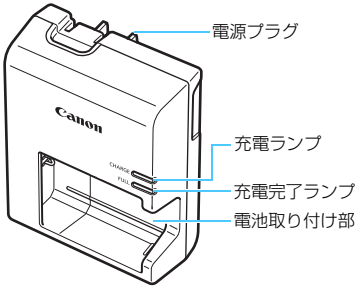
動画撮影（p.159）

イメージゾーン

：ポートレート（p.67）
：風景（p.68）
：クローズアップ（p.69）
：スポーツ（p.70）
：料理（p.71）
：夜景ポートレート（p.72）

バッテリーチャージャー LC-E10

バッテリーパック LP-E10の充電器です（p.34）。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

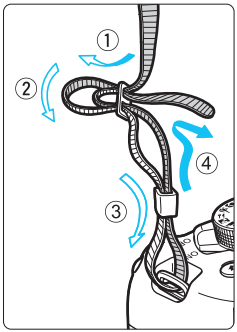
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

MEMO

1

撮影前の準備と操作の基本

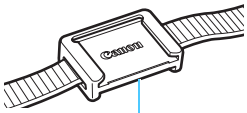
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。



ストラップ（吊りひも）の取り付け方

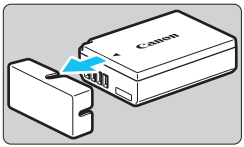
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.271）。



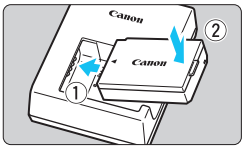
アイピースカバー

電池を充電する



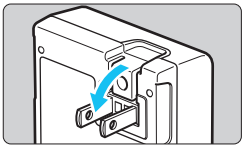
1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



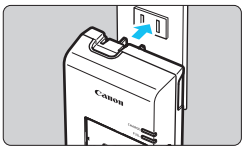
2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



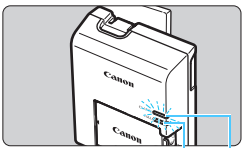
3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- ➡ 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。



- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
- 安全に充電を行うために、低温下（+6℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は、使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
  新しい電池をお買い求めください。

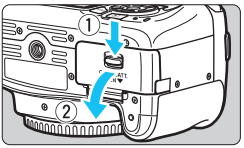
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリーパック LP-E10以外は充電しないでください。
- バッテリーパック LP-E10は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池とカードを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E10をカメラに入れます。カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。撮影した画像はカードに記録されます。

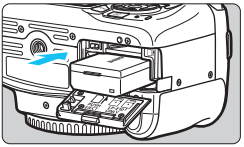
カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方



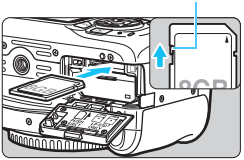
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



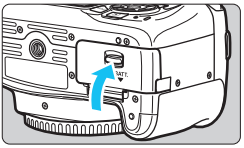
2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 カードを入れる

- **図のように、カードの表をカメラの背面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**



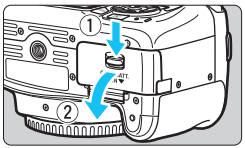
4 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。
- 電源スイッチを〈**ON**〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数（p.40）が表示されます。

カード/電池室ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

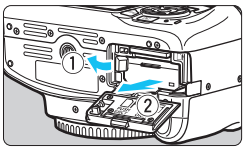
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- [📷1：**カードなしレリーズ**] を [**しない**] に設定しておくと、カードを入れ忘れたまま撮影してしまうのを防ぐことができます（p.184）。

取り出し方

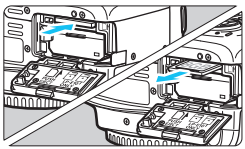


1 電源スイッチを〈OFF〉にする
（p.39）

2 ふたを開ける
- **アクセスランプが消えていることを確認して、ふたを開きます。**
- [**書き込み中...**] と表示されたときは、ふたを閉じてください。



3 電池を取り出す
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（付属／p.34）を取り付けてください。



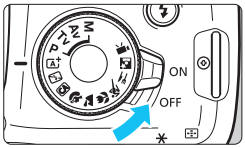
4 カードを取り出す
- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。

5 ふたを閉める
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード/電池室ふたを開けないでください。**
  また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
  ・電源コードの抜き差しを行う（家庭用電源アクセサリー（別売）使用時／p.270）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.188）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.52)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

電源を入れる

電源を入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、41ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**



〈**ON**〉：カメラが作動します。
〈**OFF**〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約30秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.47）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、［**1：オートパワーオフ**］で変更することができます（p.185）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池残量表示について

電池の残量は、電源を入れたときに、4段階で表示されます。

- : 電池の残量は十分です。
- : 電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
- : まもなく電池切れになります。（点滅表示）
- : 電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	600	580
50%ストロボ撮影	500	410

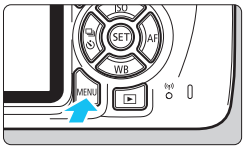
- フル充電のバッテリーパック LP-E10使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

- 下記の操作を行うと、電池が早く消耗します。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、141 ページを参照してください。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されますので、以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に自動的に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

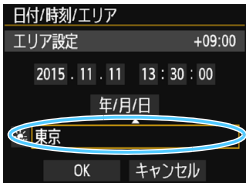


1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 ［¥2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して［¥2］タブを選びます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈(SET)〉を押します。



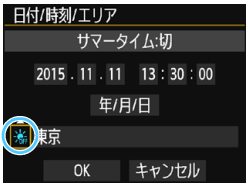
3 エリアを設定する

- **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
- 〈◄〉〈►〉を押してエリアの欄を選びます。
- 〈(SET)〉を押して、〈⏶〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押してエリアを選び、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- メニュー機能の設定操作は、50~51ページを参照してください。
- 手順3で画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。

4 日付/時刻を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
- 〈㊗〉を押して、〈☐〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈㊗〉を押します（〈☐〉の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉を押して［☀］を選びます。
- 〈㊗〉を押して、〈☐〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［☀］を選び、〈㊗〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が、1 時間進みます。［☀］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

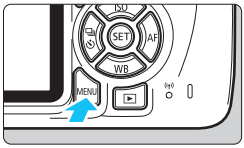
6 設定を終了する

- 〈◄〉〈►〉を押して［OK］を選び、〈㊗〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

以下の条件の場合、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- カメラから電池を取り出して保管したとき
- カメラの電池残量がなくなったとき
- カメラを氷点下に長時間放置したとき

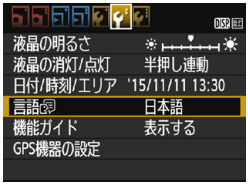
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で〈㊗〉を押したときに始まります。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

MENU 表示言語を選ぶ



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 [2] タブの［言語］を選ぶ

- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押して［2］タブを選びます。
- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して、［言語］を選び、〈SET〉を押します。

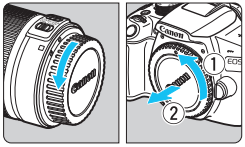
3 言語を設定する

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

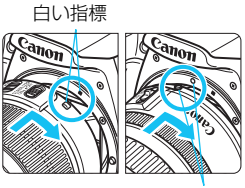
すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方



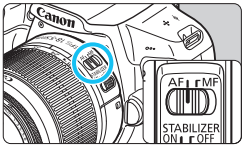
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

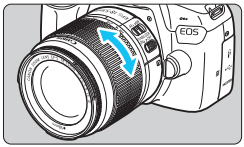
- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせの略です。
- 〈**MF**〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

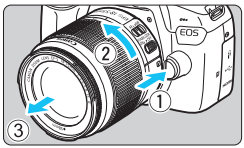
ズーム操作について



レンズのズームリングを手で回す

- ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方



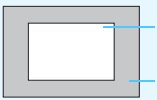
レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- **レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。**
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。
- ファインダー撮影時またはライブビュー撮影時に、TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

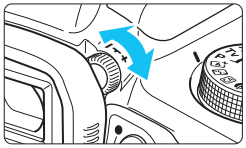
撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



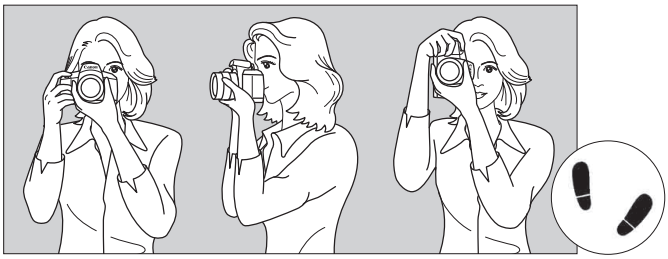
視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.271）。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、別売の視度補正レンズEの使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



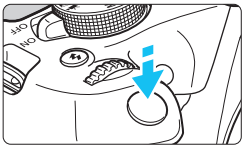
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、139ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

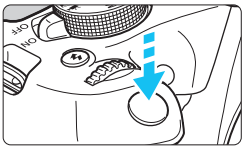


半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます（☆4）。

シャッターボタン半押し中は、液晶モニターが消灯します（p.197）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

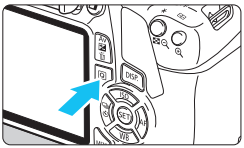
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



1 〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります（⏱10）。

2 機能を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.55）が画面に表示されます。
- 〈⌓〉を回して設定を変更します。
- 機能を選び〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

かんたん撮影ゾーン

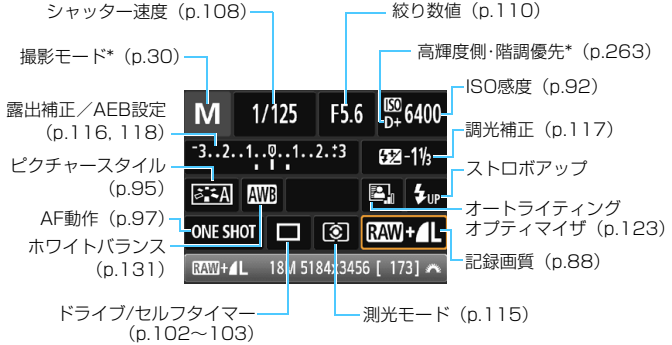
応用撮影ゾーン

3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影した画像が表示されます。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、74ページを参照してください。

クイック設定の画面例



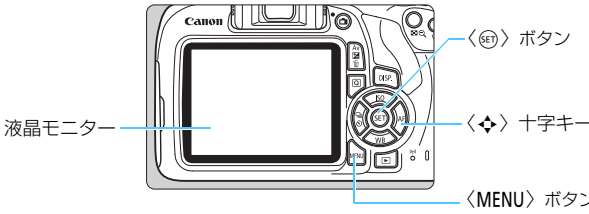
- *印の機能は、クイック設定できません。
- 〈UP〉を選んで〈SET〉を押すと、内蔵ストロボが上がります。

設定画面について

- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◄〉〈►〉または〈⚙〉で設定を変更します。さらに、〈DISP.〉ボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、クイック設定の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



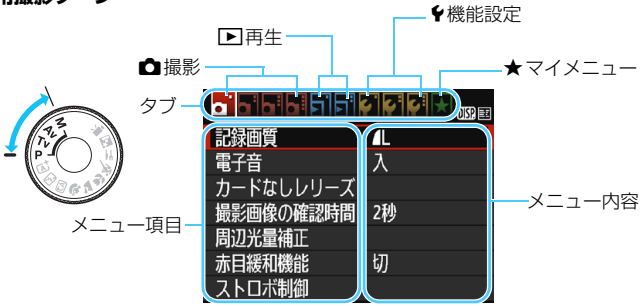
メニュー画面

撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

かんたん撮影ゾーン

動画撮影モード

応用撮影ゾーン



メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 十字キーの〈◄〉〈►〉を押してタブ（系統）を選びます。
- 例えば、本文中の［3］タブは、（撮影）タブの左から3番目〔〕を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈(SET)〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で内容を選びます（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◄〉〈►〉で選ぶ内容があります）。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態に戻ります。

- 手順2は〈〉を回してタブを選ぶこともできます。
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、280ページを参照してください。

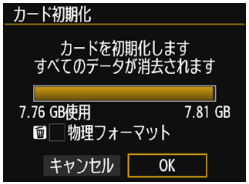
MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

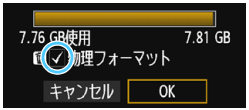
1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。



2 初期化する

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。



- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に［✓］が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.298）

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

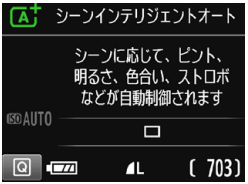
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

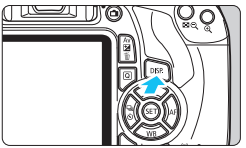
液晶モニターの表示切り換え

液晶モニターには、撮影機能の設定状態や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。

撮影機能の設定状態



- 電源を入れると、撮影機能の設定状態が表示されます。
- **シャッターボタンを半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。**



- **〈DISP.〉ボタンを押して表示を消すこともできます。**もう一度押すと表示されます。

メニュー機能

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

撮影した画像

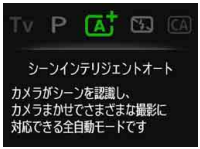
- 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

- [**2：液晶の消灯/点灯**]で、撮影機能の設定状態の表示が、消えたり点いたりしないようにすることができます（p.197）。
- メニュー機能や撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影することができます。

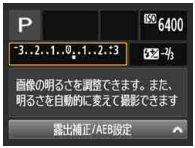
機能ガイドについて

撮影モードを変更したときや、撮影機能、ライブビュー撮影、動画撮影、再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に操作を続けると説明は消えます。

● **撮影モード**（例）



● **クイック設定**（例）



撮影機能

ライブビュー撮影

再生

MENU 機能ガイドを表示しないようにする

［機能ガイド］を選ぶ

● ［2］タブの［**機能ガイド**］を選び、〈SET〉を押します。

● ［**表示しない**］を選び〈SET〉を押します。

MEMO

2

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.75、276）。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

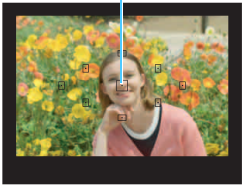
オートライティングオプティマイザ機能について

かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能（p.123）が働きます。応用撮影ゾーンでも初期状態で機能します。

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

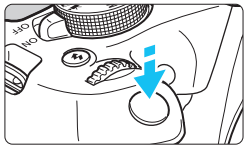
〈🅰+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.61）。

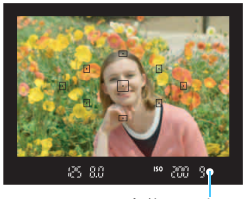
1 モードダイヤルを〈🅰+〉にする



2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

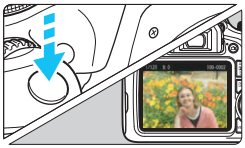
- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。





3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレーム内の点が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。

〈全自動〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈SCN〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.95）。

? こんなときは

- **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**
  明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.47）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
- **複数のAFフレームが同時に光る**
  赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。
- **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**
  動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。
  なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.61）はできません。
- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**
  レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、発光禁止モードをお使いください（p.63）。ストロボの設定以外は、〈A+〉と同じ設定で撮影されます。

● **ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**

被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離の目安は4m以内です。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈A+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🚫〉を除く）。

動いているものを撮影する

〈A+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、139ページを参照してください。

1 液晶モニターに映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 ピントを合わせる

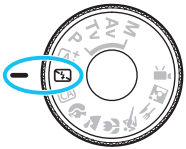
- 画面中央のAFフレーム〈□〉を被写体に合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

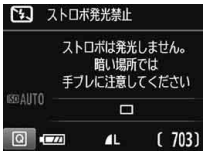
3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

ストロボが使えない場所で写す

カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。





撮影のポイント

- **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

  手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

- **人物も写真に入れるときは**

  暗い場所では、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、ピントが合う範囲やドライブ/セルフタイマー、ストロボの発光を簡単な操作で変えることができます。また、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈A+〉モードと同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

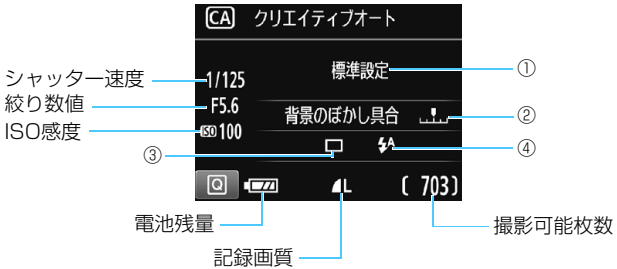
➡ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

- 〈✥〉十字キーを押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.55）が画面に表示されます。
- 機能の設定方法と内容については、65～66ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。

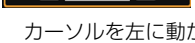


〈Q〉ボタンを押すと、次の設定ができるようになります。

①雰囲気を選んで撮影

どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈◀〉〈▶〉または〈☁〉で選ぶことができます。〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。詳しくは、76ページを参照してください。

②背景をぼかす／くっきりさせる



カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。背景をぼかしたいときは、67ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。〈◀〉〈▶〉または〈☁〉で選ぶことができます。

なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。

ストロボ撮影時は設定できません。また、〈$\mathrm{ϟ^A}$〉選択時にストロボが発光したときは設定が無効になります。

③**ドライブ/セルフタイマー**：〈SET〉を押して、〈◀〉〈▶〉または〈ダイヤル〉で設定します。

〈□〉**1枚撮影**　：1枚だけ撮影します。

〈□□〉**連続撮影**　：シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。

〈ひ〉**セルフタイマー：10秒**：
シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。

〈ひc〉**セルフタイマー：連続撮影**：
〈▲〉〈▼〉を押して撮影する枚数（2～10）を設定します。シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。

④**内蔵ストロボの発光**：〈SET〉を押して、〈◀〉〈▶〉または〈ダイヤル〉で設定します。

〈ϟA〉**内蔵ストロボ自動発光**：必要に応じて自動的に発光します。

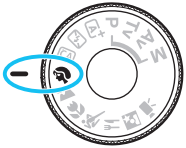
〈ϟ〉**内蔵ストロボ発光**　：常時ストロボが発光します。

〈⊘〉**内蔵ストロボ発光禁止**：ストロボは発光しません。

- セルフタイマー撮影については、103ページの（ノート）を参考に撮影してください。
- 〈⊘〉については、63ページの『ストロボが使えない場所で写す』を参考に撮影してください。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈🧑〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

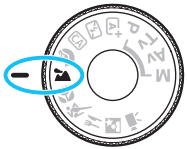
- **望遠レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**
  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目に合わせると効果的です。

- シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約3枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。
- 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏞〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。



撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

- **夜景を撮影するときは**

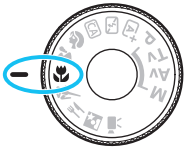
  〈🏞〉は内蔵ストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

  なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈🌃〉（夜景ポートレート）に設定し、三脚を使用して撮影します（p.72）。

- 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
  背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

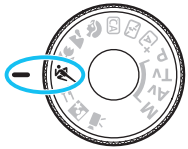
- **写したいものにできるだけ近づく**
  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**MACRO 0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。
  ストロボが発光して、画像の下側が不自然に暗くなった場合は、少し離れて撮りなおしてください。

- **ズームレンズは望遠側にする**
  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）を使用します。



撮影のポイント

- **望遠レンズを使用する**

  遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

- **中央のAFフレームでピントを合わせる**

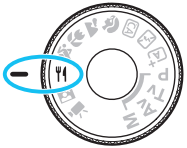
  ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

  シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約3枚）して動きの変化を写すことができます。

- 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。
- 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

料理を写す

料理を撮影するときに、〈🍴〉（料理）を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。



撮影のポイント

- **色あいを変える**

  ［**色あい**］を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは［**暖色**］側に、赤みが強すぎるときは［**寒色**］側に設定を変更して撮影してください。

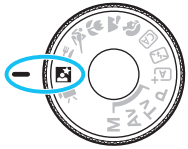
- **なるべくストロボを使わないで撮影する**

  料理にストロボ光が直接あたると、お皿や料理に反射光が写り込んだり、不自然な影ができてしまったりします。そのため、初期設定では、〈⚡〉（内蔵ストロボ発光禁止）に設定されています。暗い場所では手ブレに注意して撮影してください。

- 料理をおいしそうな色あいに撮影するためのモードなので、人物は適切な色あいにならないことがあります。
- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ撮影時は、［**色あい**］の設定が標準に切り換わります。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈🌃〉（夜景ポートレート）を使用します。三脚の使用をおすすめします。



撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。
- **画像の明るさを確認する**
  暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。
  なお、撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。
- **〈🅰+〉（シーンインテリジェントオート）でも撮影しておく**
  ブレた写真になりやすいので、〈🅰+〉でも撮影しておくことをおすすめします。

ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくいことがあります。このようなときは、AF方式を［**クイックAF**］に設定して撮影することをおすすめします。それでもピントが合いにくいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動でピントを合わせてください。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

Q クイック設定について

かんたん撮影ゾーンで、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定状態になり、次ページの表に示した機能を設定することができます。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

例：ポートレートモード

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

- 〈✥〉十字キーを押して機能を選びます（A+/⚡ではこの操作は不要）。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.55）が画面に表示されます。
- 〈◄〉〈►〉または〈⚙〉で設定を変更します。
- 機能を選び〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定　○：選択可能　□：選択不可

項目										
ドライブ/セルフタイマー（p.102～103）	□：1枚撮影	●	●	●		●	●		●	●
	連続撮影			○	●			●		
	10秒	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連続撮影*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	自動発光	●		●	●		●			●
	常時発光			○					○	
	発光禁止		●	○		●		●	●	
雰囲気を選んで撮影（p.76）				○	○	○	○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影（p.80）					○	○	○	○		
背景：ぼかす/くっきり（p.65）				○						
色あい（p.71）									○	

* 連続撮影枚数は、〈▲〉〈▼〉で設定してください。

撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈A+〉〈⚡〉を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。

雰囲気	A+	⚡	CA	🌷	🏔	🌷	🔇	🍴	🎨	雰囲気の効果
①標準設定			○	○	○	○	○	○	○	設定なし
②くっきり鮮やかに			○	○	○	○	○		○	弱め／標準／強め
③ふんわりやわらかく			○	○	○	○	○		○	弱め／標準／強め
④暖かくやさしく			○	○	○	○	○		○	弱め／標準／強め
⑤しっとり深みのある			○	○	○	○	○		○	弱め／標準／強め
⑥ほの暗くひっそりと			○	○	○	○	○		○	弱め／標準／強め
⑦明るく			○	○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
⑧暗く			○	○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
⑨モノクロ			○	○	○	○	○	○	○	青／白黒／セピア

1 モードダイヤルを〈CA〉〈🌷〉〈🏔〉〈🌷〉〈🔇〉〈🍴〉〈🎨〉のいずれかにする

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

3 クイック設定で雰囲気を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［**標準設定**］を選び、画面に［**雰囲気を選んで撮影**］が表示された状態にします。
- 〈◀〉〈▶〉または〈⚙〉で雰囲気を選びます。
- ➡ 選んだ雰囲気の仕上がりイメージが表示されます。

4 雰囲気の効果を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、画面の下側に［**雰囲気の効果**］が表示された状態にします。
- 〈◄〉〈►〉または〈☆〉で効果の度合い・内容を選びます。

5 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈📷〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**標準設定**］に戻ります。

- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなることがあります。
- 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。［**☀2：液晶の明るさ**］で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして映像を見てください。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押して、［**雰囲気を選んで撮影**］と［**雰囲気の効果**］を設定します。

各雰囲気の画像特性について

① **標準設定**

各撮影モードの標準的な画像特性です。なお、〈👤〉は人物撮影、〈🏔〉は風景撮影に適した画像特性になります。各雰囲気は、それぞれの撮影モードの標準設定をベースに画像特性が変わります。

② **くっきり鮮やかに**

被写体をくっきりさせる印象的な特性で、くっきり鮮やかな雰囲気の写真になります。[**標準設定**]よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

③ **ふんわりやわらかく**

被写体の強調感を抑えた特性で、ふんわりやわらかな雰囲気の写真になります。人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

④ **暖かくやさしく**

被写体の強調感を抑えた暖色系の特性で、暖かみのある、やさしい雰囲気の写真になります。人物やペットなどを暖かみのある雰囲気で撮影するときに効果的です。

⑤ **しっとり深みのある**

全体的な明るさを少し抑えながら被写体を強調した特性で、しっとり深みのある雰囲気の写真になります。人や生き物を存在感ある雰囲気で撮影するときに効果的です。

⑥ **ほの暗くひっそりと**

全体的な明るさを少し抑えた寒色系の特性で、ほの暗くひっそりとした雰囲気の写真になります。影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気で撮影したいときに効果的です。

⑦ **明るく**
明るめの写真になります。

⑧ **暗く**
暗めの写真になります。

⑨ **モノクロ**
モノクロ写真になります。モノクロの色は、青、白黒、セピアの3色から選択することができます。なお、[**モノクロ**]選択時は、ファインダー内に〈**B/W**〉が表示されます。

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈🚶〉〈🏔〉〈🌷〉〈🌃〉では、明かりや状況にあわせた設定で撮影することができます。通常は［**標準設定**］で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

ライブビュー撮影時に、［**雰囲気を選んで撮影**］（p.76）と組み合わせるときは、［**明かりや状況にあわせて撮影**］を先に設定しておくと、液晶モニターで仕上がりのイメージが確認しやすくなります。

明かりや状況	A+	📷	CA	🚶	🏔	🌷	🌃	🍴	🖼
①標準設定				○	○	○	○		
②日なた				○	○	○	○		
③日かげ				○	○	○	○		
④くもり				○	○	○	○		
⑤電球				○		○	○		
⑥蛍光灯				○		○	○		
⑦夕焼け				○	○	○	○		

1 **モードダイヤルを〈🚶〉〈🏔〉〈🌷〉〈🌃〉のいずれかにする**

2 **ライブビュー映像を表示する**

- 〈📷〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

3 クイック設定で明かりや状況を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［**標準設定**］を選び、画面に［**明かりや状況にあわせて撮影**］が表示された状態にします。
- 〈◄〉〈►〉または〈☁〉で明かりや状況を選びます。
- ➡ 選んだ明かりや状況の仕上がりイメージが表示されます。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈📷〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**標準設定**］に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、［**標準設定**］に切り換わります（ただし、撮影情報は設定した明かりや状況が表示されます）。
- ［**雰囲気を選んで撮影**］と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果が活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に［**夕焼け**］は、暖かみのある色あいになるため、設定した雰囲気の効果が活かせないことがあります。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押して、［**明かりや状況にあわせて撮影**］を設定します。

各設定の効果について

① **標準設定**
　標準的な設定です。

② **日なた**
　日なたにある被写体を撮影するときに設定します。青空や緑をより自然に写したいときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

③ **日かげ**
　日かげにある被写体を撮影するときに設定します。肌が青白く写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

④ **くもり**
　くもり空の下で撮影するときに設定します。肌や風景の色が実際よりもくすんで写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

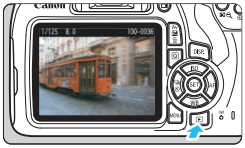
⑤ **電球**
　白熱電球下で撮影するときに設定します。白熱電球の赤色を抑えたいときに効果的です。

⑥ **蛍光灯**
　蛍光灯下で撮影するときに設定します。蛍光灯の種類に関係なく対応しています。

⑦ **夕焼け**
　夕焼けの印象的な色を残して撮影したいときに設定します。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、207ページを参照してください。



1 画像を再生する

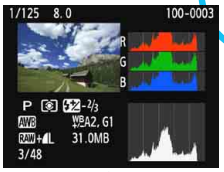
- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

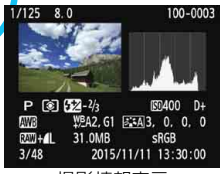
- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。
  〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

簡易情報表示

簡易情報＋画質/番号表示



ヒストグラム表示



撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影機能の設定状態に戻ります。

MEMO

3

カメラまかせから一歩進んだ撮影

かんたん撮影ゾーンでは、失敗を防ぐため、複雑な機能の変更ができないようになっていましたが、〈**P**〉（プログラムAE）モードでは、さまざまな機能を組み合わせ、一歩進んだ思いどおりの撮影を行うことができます。

- 〈**P**〉モードでは、標準露出になるように、シャッター速度と絞り数値が自動的に設定されます。
- かんたん撮影ゾーンと〈**P**〉モードの撮影機能の組み合わせの違いについては、276～277ページを参照してください。
- この章で説明する機能は、4章で説明する〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用することができます。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（p.30）限定の機能であることを示しています。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。
＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレーム内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。

3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

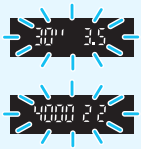
撮影のポイント

● **ISO感度を変える。内蔵ストロボを使う**

被写体や周囲の明るさに応じてISO感度（p.92）を変えたり、内蔵ストロボ（p.104）を使います。〈**P**〉では、内蔵ストロボが自動的に発光しませんので、室内や暗い場所では、〈ϟ〉（ストロボ）ボタンを押して内蔵ストロボを上げます（クイック設定で〈ϟUP〉を選んで上げることもできます）。

● **プログラムを変えることができる（プログラムシフト）**

シャッターボタンを半押ししたあと、〈⌓〉を回すと、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変えて撮影することができます。プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。なお、ストロボ使用時はシフトできません。



● シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
● シャッター速度の「**4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

〈P〉と〈A⁺〉モードの違いについて

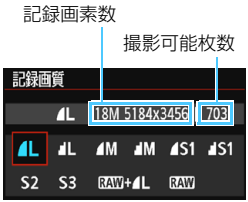
〈A⁺〉モードでは、失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードでは、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能は自由に設定することができます（p.276）。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2、S3、RAW+◢L、RAWの10種類です。

1 記録画質を選ぶ

- ［1］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡［**記録画質**］が表示されます。



2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「記録画素数」と、「撮影可能枚数」を目安に選び、〈SET〉を押します。

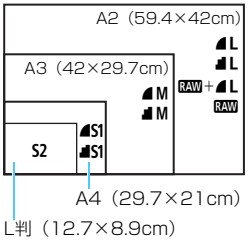
記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質			記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
◢L	高画質	JPEG	約1790万（18M）	6.4	1110	1110
◢L				3.2	2190	2190
◢M	中画質		約800万（8.0M）	3.4	2100	2100
◢M				1.7	4100	4100
◢S1	低画質		約450万（4.5M）	2.2	3270	3270
◢S1				1.1	6210	6210
S2			約250万（2.5M）	1.3	5440	5440
S3			約35万（0.3M）	0.3	21060	21060
RAW＋◢L	高画質		約1790万（18M）	24.5+6.4	230	5
RAW				24.5	290	6

* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**

? こんなときは

● 印刷する用紙サイズで記録画質を選びたい



図を目安に記録画質を選んでください。撮影後にトリミング（画像の切り抜き）をするときは、記録画素数の多い**L**、**L**、RAW＋**L**、RAWをおすすめします。

なお、**S2**は市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。**S3**は電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

● 、の違いは？

圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、の方がきれいです。を選ぶと画質は少し落ちますが、よりもカードに多く記録できます。なお、**S2**、**S3**はともに（ファイン）の画質です。

● 表記されている撮影可能枚数よりも多く撮影できた

撮影条件によっては、表記の枚数よりも多く撮影できることがあります。逆に、撮影できる枚数が少なくなることもありますので、目安としてとらえてください。

● 連続撮影可能枚数（バースト撮影枚数）は、カメラに表示される？

ファインダー内右端の数字が連続撮影可能枚数です。ただし、**0**～**9**の1桁表示なので、連続撮影できる枚数が、8枚以下になるまで「**9**」表示のままです。なお、この数値はカードが入っていないときにも表示されますので、カードを入れずに撮影しないよう注意してください。

● RAWはどういうときに使うの？

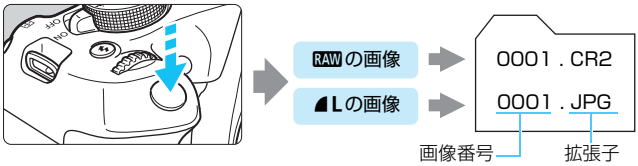
RAWはパソコンで処理が必要な画像です。詳しくは、次ページの『RAWについて』と『RAW＋Lについて』をお読みください。

RAW について

RAWは、◢Lなどの画像を作り出す前の生データです。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル／p.314）などを使わないとパソコンで見ることができませんが、◢Lなどではできないさまざまな画像調整を行うことができます。1枚の作品をじっくり創り上げたいときや、大切な撮影で使うと効果的です。

RAW＋◢Lについて

RAW＋◢Lを選んだときは、1回の撮影でRAWと◢Lの画像がカードに同時に記録されます。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で保存されます。◢LはEOS用ソフトウェアの入っていないパソコンでも見たり、印刷したりすることができます。

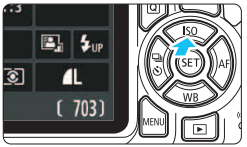


RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします（p.314）。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのWebサイトから、最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（p.315）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

ISO: 明るさに応じて感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます（p.93）。



1 〈▲ISO〉ボタンを押す

➡ [ISO感度] が表示されます。

2 ISO感度を設定する

- 〈◀〉〈▶〉または〈☁〉でISO感度を選び、〈SET〉を押します。
- [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます（p.93）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.105）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～6400、H	暗い屋内、夜景	

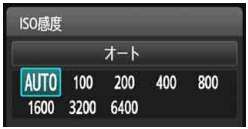
* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- [ϟ3：カスタム機能（C.Fn）] の [2：ISO感度拡張] を [1：する] に設定すると、「H」（ISO12800相当）も選択できるようになります（p.260）。
- [ϟ3：カスタム機能（C.Fn）] の [10：ストロボボタンの機能] を [1：ISO感度] に設定すると、〈ϟ〉ボタンでISO感度の設定ができるようになります。

- [ϟ3：カスタム機能（C.Fn）] の [6：高輝度側・階調優先] を [1：する] に設定すると、ISO100と「H」（ISO12800相当）は選択できなくなります（p.263）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 「**H**」（ISO12800 相当）は拡張 ISO 感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。

ISO感度の自動設定【AUTO】について



ISO感度の設定が［**AUTO**］のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて次ページのように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
A+/📷/CA/⛰/🌷/🏃/🍴/🌃	ISO100～3200自動設定
P/Tv/Av/M	ISO100～6400自動設定*1
🚶	ISO100
ストロボ撮影時	ISO800*2*3*4*5
バルブ撮影時	ISO800*5

*1：上限値の設定による
*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる
*3：かんたん撮影ゾーン（🌃を除く）、および〈P〉モードで、外部ストロボをバウンスしたときはISO800～1600（または上限値まで）の範囲で自動設定
*4：〈🍴〉モードのときはISO400固定。また、〈🍴〉モードで外部ストロボをバウンスしたときはISO400～1600の範囲で自動設定
*5：上限値がISO400の場合は、ISO400固定

- 「**AUTO**」のときのISO感度表示は1段ステップですが、実際はより細かく制御されています。そのため、撮影情報（p.232）でISO感度を確認すると、ISO125や640などと表示されることがあります。
- 〈🚶〉モードのときに、ISO100以外の感度が表示されることがありますが、実際は表に示した感度で撮影されます。

MENU ISO感度【AUTO】時の上限値設定について 応用

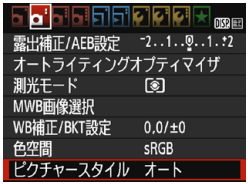
ISO感度オート時に自動設定される感度の上限値を、ISO400～6400の間で設定することができます。

［📷3］タブの［**ISOオート**］を選び、〈SET〉を押します。ISO感度を選び〈SET〉を押します。

被写体に最適な画像特性を選ぶ 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、ピクチャースタイルの選択はできません。



1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［2］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押してスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- スタイルが設定され、メニュー画面に戻ります。

各スタイルの画像特性について

オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

127ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

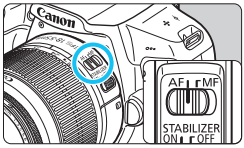
RAW以外の記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、ファインダー内に〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

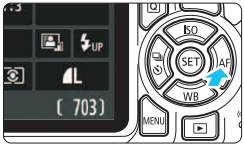
［**ポートレート**］や［**風景**］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.129）。登録されていないときは、［**オート**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

AF: ピント合わせの動作を変える 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2 〈► AF〉ボタンを押す

➡［AF動作］が表示されます。

3 AF動作を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈 〉でAF動作を選び、〈(SET)〉を押します。

4 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピント合わせが行われます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレーム内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光（p.115）のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい被写体』(p.101)を参照してください。
- [📷1:電子音]を[切]に設定すると、ピントが合ったときに、電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る:AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する(動いている)被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- AFフレーム選択(p.99)が、自動選択のときは、初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AF動作を自動的に切り換える:AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

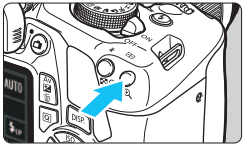
- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、電子音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

ピントを合わせる枠を選ぶ 応用

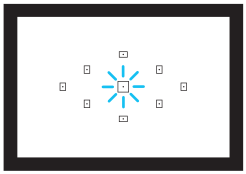
かんたん撮影ゾーンでは、自動で基本的に一番近くにあるものにピントを合わせるため、思ったところにピントが合わないことがあります。

〈**P**〉モードだけでなく、〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉モードでは、ピント合わせを行うAFフレーム（枠）を1つ選び、その枠を合わせたところだけにピントを合わせることができます。



1 〈⊞〉ボタンを押す（⏱6）

➡ 現在選択されているAFフレームが、液晶モニターとファインダー内に表示されます。



2 AFフレームを選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押してAFフレームを選びます。
- ファインダーをのぞきながらAFフレームを選ぶときは、〈⚙〉を回して赤く光る点を移動させます。
- すべてのAFフレームが点灯しているときは自動選択です。被写体の位置に応じて、自動的にAFフレームが決まります。
- 〈㊗〉を押すと、中央のAFフレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- 選んだAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

撮影のポイント

- **人物をアップで撮影するときは、「ワンショットAF」で目にピントを合わせる**
  写される人の目にピントを合わせてから構図を決めると、生きいきとした表情が引き立った写真になります。
- **ピントが合いにくいときは、中央のAFフレームを選ぶ**
  9点の中で、一番ピントの合いやすいAFフレームです。
- **動いているものに楽にピントを合わせ続けたいときは、「自動選択」とAF動作の「AIサーボAF」(p.98) を組み合わせる**
  初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈📷〉〈🏔〉〈🏃〉モードのときや、〈CA〉〈🍴〉モードで［**内蔵ストロボの発光**］を〈⊗〉に設定したときは、内蔵ストロボによるAF補助光は投光されません。
- AF動作がAIサーボAFのときは、AF補助光は投光されません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲の目安は4m以内です。
- 応用撮影ゾーンでは、〈ϟ〉ボタンを押してストロボを上げておくと (p.104)、必要に応じてAF補助光が光ります。なお、［**ϟ3：カスタム機能 (C.Fn)**］の［**7：AF補助光の投光**］の設定によっては、光りません (p.264)。

エクステンダー（別売）を組み合わせたときの開放絞り数値が、F5.6よりも大きい場合は、AF撮影できません（ライブビュー撮影時の［**ライブ1点AF**］［**ライブAF**］を除く）。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

ピントが合いにくい被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
  （例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
  （例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

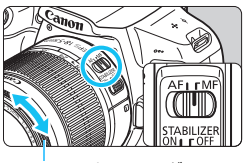
これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.61）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影時の［**ライブ1点AF**］［**ライブAF**］でピントが合いにくい撮影条件については、152ページを参照してください。

MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング

1 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする**

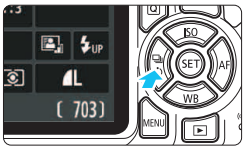
2 **ピントを合わせる**

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったAFフレーム内の点が一瞬赤く光り、電子音が鳴って、合焦マーク〈●〉が点灯します。

連続撮影する 応用

1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。子どもが走ってくる様子や、表情の変化を写し続けたいときに効果的です。



1 **〈◄ 連続 セルフ〉ボタンを押す**

2 **〈連続〉を選ぶ**

- 〈◄〉〈►〉または〈 〉で連続撮影〈連続〉を選び、〈SET〉を押します。

3 **撮影する**

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影が行われます。

撮影のポイント

被写体の動きに応じてAF動作（p.97）**を組み合わせる**

- **動いている被写体**

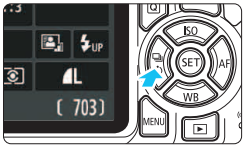
  「AIサーボAF」と組み合わせると、被写体にピントを合わせ続けながら連続撮影することができます。

- **止まっている被写体**

  「ワンショットAF」と組み合わせると、一度合わせたピントの位置を変えずに連続撮影できます。

- ［**3：カスタム機能（C.Fn）**］の［**5：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**2：強め**］に設定すると（p.263）、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。また、連続撮影速度が遅くなることがあります。
- 電池残量が少ないときや、暗い場所で撮影を行ったときは、連続撮影速度が低下することがあります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。

セルフタイマー撮影



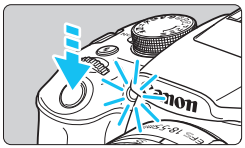
1 〈◀ ⧉ ⏲〉ボタンを押す

2 セルフタイマーを選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉または〈⚙〉でセルフタイマーを選び、〈SET〉を押します。

⏲ ：約10秒後に撮影
⏲2：約2秒後に撮影 応用
⏲C：約10秒後、設定した枚数を連続撮影

〈▲〉〈▼〉を押して、撮影する枚数（2～10）を設定します。



3 撮影する

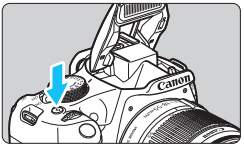
- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

- 〈⏲C〉では、記録画質やストロボ撮影などの撮影条件によって、連続撮影の間隔が長くなることがあります。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.271）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.83）。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.61）。
- セルフタイマー撮影を中止するときは、〈◀ ⧉ ⏲〉ボタンを押します。

ϟ 内蔵ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60～1/200秒）が自動設定されます。

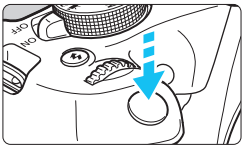


1 〈ϟ〉ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈ϟ〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「**ϟbuSY**」、液晶モニターに［**BUSYϟ**］が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈ϟ〉が表示されていることを確認します。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

撮影のポイント

- **明るい日中では、ISO感度を下げる**
  ファインダー内の数値が点滅するときは、ISO感度の数値を小さくします。
- **レンズのフードを外す。被写体に近づきすぎない**
  レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認してください。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安 （約・m）

ISO感度 (p.92)	EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II	
	広角側	望遠側
	F3.5	F5.6
100	1～2.6	1～1.6
400	1～5.3	1～3.3
800/AUTO*	1～7.4	1～4.6
1600	1.3～10.5	1～6.6
6400	2.6～21.0	1.6～13.1

* 日中シンクロ撮影時は、ISO800より感度が低くなることがあります。

- 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。
- 内蔵ストロボを手で押さえるなど、内蔵ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。

MENU 赤目緩和機能について

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

〈⚡〉〈▲〉〈🔇〉〈🎥〉以外の撮影モードで機能します。

- [📷1] タブの [**赤目緩和機能**] を選び、〈SET〉を押します。
- [**入**] を選び〈SET〉を押します。
- ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

- 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。

- 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

4

もっとカメラを使いこなす

この章では、第3章の応用編として、さらにカメラの機能を使って思いどおりの写真を撮るための方法を説明しています。

- 章の前半では、モードダイヤルの〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉を使った撮影方法を説明しています。
- 3章で説明したすべての機能は、〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用することができます。
- 撮影機能の組み合わせについては、276ページを参照してください。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（p.30）限定の機能であることを示しています。

電子ダイヤルガイドについて

シャッター速度、絞り数値、露出補正などを設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉（電子ダイヤル）を回して設定することを示しています。

Tv：被写体の動きを表現する

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 『撮影のポイント』を参考にしてシャッター速度を決めます。
- シャッター速度は、〈〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

シャッター速度の表示

液晶モニターでは、シャッター速度を分数で表示していますが、ファインダー内では、その分母のみ表示しています。なお、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

撮影のポイント

● **動きの速い被写体が、止まっているような写真にするには**

動きの速さにもよりますが、シャッター速度の数値を1/4000～1/500秒に設定します。

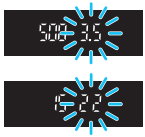
● **子どもや動物が走る様子を、躍動感ある写真にするには**

シャッター速度の数値を1/250～1/30秒に設定し、被写体をファインダーで追い続けながらシャッターボタンを押します。望遠レンズを使うときは、手ブレしないようにカメラをしっかり構えてください。

● **川の流れや噴水を、流動感ある写真にするには**

シャッター速度の数値を1/30秒以下に設定します。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。

● **絞り数値が点滅しないシャッター速度を設定する**



シャッターボタンを半押しして、絞り数値が表示されている状態でシャッター速度を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、絞り数値も一緒に変わります。このとき、絞り数値の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるために絞り数値が点滅します。

写真が暗くなるときは、小さな絞り数値が点滅します。〈 〉を左に回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

写真が明るくなるときは、大きな絞り数値が点滅します。〈 〉を右に回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

ϟ 内蔵ストロボを使う

自動設定された絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるように、ストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒に制限されます。

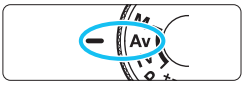
Av：ピントの合う範囲を変える

背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉（絞り優先AE）を使って撮影します。

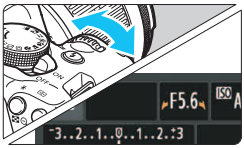
＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。
- 数値は、〈〉を右に回すと大きくなり（絞る）、左に回すと小さくなります（開ける）。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

撮影のポイント

● **絞り数値を大きくしたときや、暗い場所では手ブレに注意する**

絞り数値を大きくするほどシャッター速度が遅くなります。また、暗い場所ではシャッター速度が最長30秒になります。ISO感度を上げてカメラをしっかり構えて撮影するか、三脚に固定して撮影してください。

● **ピントの合う範囲は、絞り数値だけでなく、使用するレンズと撮影する距離によっても変わる**

広角レンズはピントが前後方向に合う範囲が広いので、絞り数値をあまり大きくしなくても手前から遠くまでピントの合った写真が撮影できます。逆に望遠レンズでは、ピントの合う範囲が狭くなります。

また、ピントの合う範囲は、撮影する距離が近くなるほど狭くなり、撮影する距離が遠くなるほど広くなります。

● **シャッター速度が点滅しない絞り数値を設定する**

シャッターボタンを半押しして、シャッター速度が表示されている状態で絞り数値を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、シャッター速度も一緒に変わります。このとき、シャッター速度の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるためにシャッター速度が点滅します。

写真が暗くなるときは、「**30"**」（30秒）が点滅します。〈 〉を左に回して絞り数値を小さくするか、ISO感度を上げます。

写真が明るくなるときは、「**4000**」（1/4000秒）が点滅します。〈 〉を右に回して絞り数値を大きくするか、ISO感度を下げます。

ϟ 内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。シャッター速度は、その場の明るさに応じて、1/200秒～30秒の範囲で自動設定されます。

暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。

なお、シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、［ϟ**3：カスタム機能 (C.Fn)**］の［**3：Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1：1/200-1/60秒自動**］または［**2：1/200秒固定**］に設定します（p.261）。

MENU ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影しない状態では、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。次の操作を行うと、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を撮影前に確認することができます。

1 絞り込みができるように設定する

- ［ϟ**3：カスタム機能 (C.Fn)**］の［**9：SETボタンの機能**］を［**4：絞り込み**］に設定します（p.266）。
- カスタム機能の設定方法については、258 ページを参照してください。

2 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを2回押してメニューを終了します。

3 〈(SET)〉ボタンを押す

➡ 絞り込みが行われ、ピントの合う範囲が確認できます。

ライブビュー映像を見ながら（p.140）、〈(SET)〉を押したまま絞り数値を変えると、ピントの合う範囲がよくわかります。

M: 露出を自分で決めて撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にして、自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

〈 〉

〈Av〉＋〈 〉

2 ISO感度を設定する（p.92）

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を回して設定します。

標準露出指標

露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内に露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

5 露出を決めて撮影する

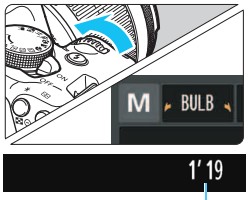
- 任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±2段を超えるときは、ファインダー内の露出レベル表示の端が〈◖〉または〈◗〉の表示になります（液晶モニターの露出レベル表示は、±3段を超えると、〈**-3**〉または〈**+3**〉の位置で〈▮〉が点滅）。

- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.123）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。
- ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。

ϟ 内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒、バルブに制限されます。

BULB: 長時間露光（バルブ）撮影



露光経過時間

バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間だけ露光を行う機能で、打ち上げ花火などの撮影に使用します。

前ページの手順3で〈☁〉を左に回して行くと、〈**BULB**〉（バルブ撮影）ができます。撮影中は液晶モニターに露光経過時間が表示されます。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- [ϟ3：**カスタム機能（C.Fn）**]の[**4：長秒時露光のノイズ低減**]を[**1：自動**]、または[**2：する**]に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを低減することができます（p.262）。
- バルブ撮影時にISOオートに設定したときは、ISO感度が800に固定されます（p.94）。

バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ（別売／p.271）の使用をおすすめします。

明るさの測り方を変える 応用

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、3種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。

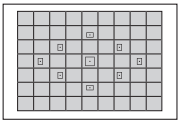
なお、かんたん撮影ゾーンでは、測光モードが自動設定されます。

1 ［測光モード］を選ぶ

- ［2］タブの［**測光モード**］を選び、〈SET〉を押します。

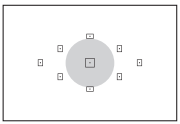
2 測光モードを設定する

- 項目を選び〈SET〉を押します。



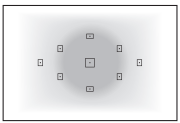
評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。



中央部重点平均測光

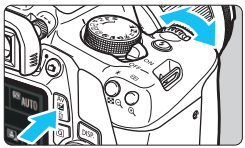
画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。経験豊富な上級者向けの測光モードです。

評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。（部分測光）／（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

自分の好みに明るさを調整する 応用

Av± 露出補正を使って撮影する

ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段です。



撮影結果が暗いとき
〈Av±〉ボタンを押しながら〈 〉を右に回します。（プラス補正）

撮影結果が明るいとき
〈Av±〉ボタンを押しながら〈 〉を左に回します。（マイナス補正）

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

➡ 図のように、液晶モニターとファインダー内の露出レベル表示が動きます。

● **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、露出補正を解除します。**

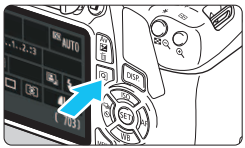
暗めの露出

明るく（プラス）補正

● ファインダー内の露出補正表示は±2段です。±2段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。
● ±2段を超える補正を行うときは、［**📷2：露出補正／AEB設定**］（p.118）、またはクイック設定（p.48）で設定することをおすすめします。

ストロボ調光補正を使って撮影する

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。



1 **〈Q〉ボタンを押す**（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります（p.48）。

2 **［⚡］を選ぶ**

● 〈✥〉十字キーを押して［⚡＊］を選びます。

➡ 画面下側に［**調光補正**］と表示されます。

3 **補正量を設定する**

● 撮影結果が暗いときは、〈◌〉を右に回します（プラス補正）。
撮影結果が明るいときは、〈◌〉を左に回します（マイナス補正）。

➡ シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に〈⚡〉が表示されます。

● **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、調光補正を解除します。**

［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.123）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正／調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

［**1：ストロボ制御**］の［**内蔵ストロボ機能設定**］で調光補正を行うこともできます（p.199）。

MENU 明るさを自動的に変えて撮る 応用

露出補正の応用機能で、1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的に明るさの異なる3枚の写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。

この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

標準露出

暗くなるよう補正
（マイナス補正）

明るくなるよう補正
（プラス補正）

---

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［📷2］タブの［**露出補正／AEB設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈⚙〉を回すとAEBレベルが設定できます。
- 〈◄〉〈►〉を押すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影が行われます。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を終了すると、液晶モニターにAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ストロボ充電完了などで、AEB設定が自動解除されます。

撮影のポイント

- **連続撮影と組み合わせる**
  連続撮影〈□〉(p.102)に設定してシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に連続撮影して自動停止します。
- **ドライブモードが1枚撮影（□）のときは**
  シャッターボタンを3回押して撮影してください。標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- **セルフタイマーと併用できる**
  セルフタイマー〈⏲〉〈⏲$_2$〉(p.103)を使うと、1回の撮影操作で、約10秒後または約2秒後に3枚連続撮影されます。なお、〈⏲$_C$〉(p.103)に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されます。

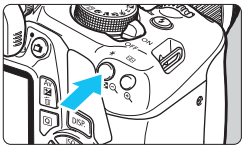
- ストロボ使用時、バルブ撮影時は、AEB撮影できません。
- [📷2：**オートライティングオプティマイザ**](p.123)が[**しない**]以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

✳ 明るさを固定して撮る 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

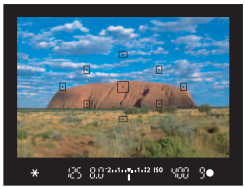
1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。



2 〈✳〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。



3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.115）	AFフレーム選択（p.99）	
	自動選択	任意選択
[⊡]*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[⊡][ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

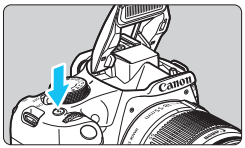
* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

バルブ撮影時は、AEロックできません。

✳ ストロボの発光量を固定して撮る 応用

画面の端に被写体を置いてストロボ撮影を行うと、背景などの影響により、被写体が明るく／暗く写ることがあります。そのようなときは、FEロック機能を使います。被写体を適切な明るさにするための発光量を決めたあと、構図を変えて（画面の端に被写体をおいて）撮影することができます。EXスピードライト使用時もこの機能を使うことができます。

＊FEは、Flash Exposure：フラッシュエクスポージャーの略です。

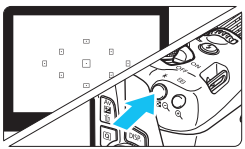


1 〈ϟ〉ボタンを押す

➡ 内蔵ストロボが上がります。

● シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる



3 〈✳〉ボタンを押す（⏱16）

● ファインダーの中央に被写体をおいて、〈✳〉ボタンを押します。

➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ✳〉が点灯します。

● 〈✳〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4 撮影する

● 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

➡ ストロボが発光し、撮影されます。

- 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作を行ってください。
- ライブビュー撮影時は、FEロックできません。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、[**標準**]に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。

かんたん撮影ゾーンでは、[**標準**]に自動設定されます。

1 [オートライティングオプティマイザ]を選ぶ

- [2]タブの[**オートライティングオプティマイザ**]を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

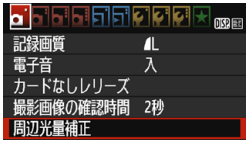
3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

- [**3：カスタム機能 (C.Fn)**]の[**6：高輝度側・階調優先**]を[**1：する**]に設定すると、オートライティングオプティマイザが[**しない**]に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、画像が明るすぎるときは、[**弱め**]または[**しない**]に設定して撮影してください。
- [**しない**]以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**しない**]に設定してください。
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。

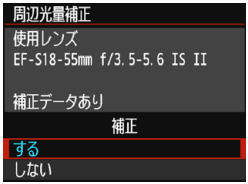
MENU 画像の四隅の光量不足を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「周辺光量の低下」といいますが、この現象を補正することができます。初期状態では、補正［**する**］に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.314）で補正します。



1 ［周辺光量補正］を選ぶ

- ［1］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

補正しない

補正する

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正を行うためのデータがレンズ約30本分登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量補正が行われます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.314）を使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

- 撮影したJPEG画像の周辺光量を、後から補正することはできません。
- 撮影条件により、画像の周辺部にノイズが発生することがあります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正の効果は映像に反映されません。

- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後、画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

画像特性を自分の好みに調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、128ページを参照してください。

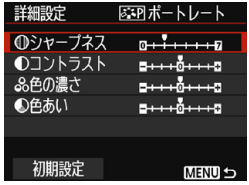
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［2］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ スタイル選択画面になります。

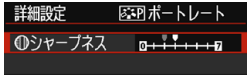
2 スタイルを選ぶ

➡ スタイルを選び〈DISP.〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。



4 内容を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。

- 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、95ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

設定内容とその効果

シャープネス

被写体の鮮鋭度（シャープネス）の度合いが調整できます。

初期設定よりも被写体の鮮鋭度を弱くしたいときは、**0** 側に設定します。**0** に近づけるほど柔らかい（ぼやけた）感じの写真になります。

逆に被写体の鮮鋭度を強くしたいときは、**7** 側に設定します。**7** に近づけるほど硬い（シャープな）感じの写真になります。

コントラスト

写真の明るい部分と暗い部分の明暗差（コントラスト）や、色のメリハリの強さが調整できます。

初期設定よりもコントラストを弱くしたいときは、マイナス側に設定します。**−** に近づけるほど全体的におとなしい感じの写真になります。

逆にコントラストを強くしたいときは、プラス側に設定します。**+** に近づけるほど全体的にくっきりした感じの写真になります。

色の濃さ

写真全体の色の濃さが調整できます。

初期設定よりも薄い発色にしたいときは、マイナス側に設定します。**−** に近づけるほど全体的に色の薄い写真になります。

逆に濃い発色にしたいときは、プラス側に設定します。**+** に近づけるほど全体的に色の濃い写真になります。

色あい

肌の色あいが調整できます。

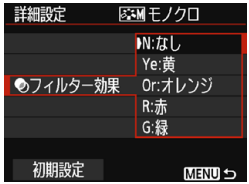
初期設定よりも肌色を赤めにしたいときは、マイナス側に設定します。**−** に近づけるほど肌の色あいが赤くなります。

逆に肌の色あいを赤色寄りにしたくないときは、プラス側に設定します。**+** に近づけるほど肌の色あいが黄色寄りになります。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

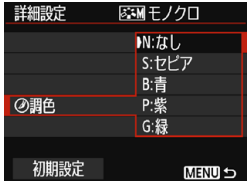


フィルター効果を使うと、同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した写真にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye: 黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or : オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



調色を設定して撮影すると、色の付いたモノクロ写真にすることができます。より印象的な写真を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

好みの画像特性を登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

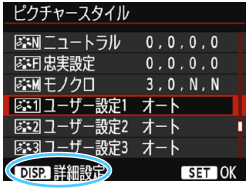
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.314）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

---

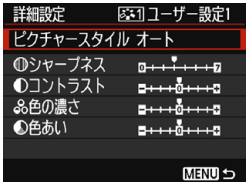
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［**2**］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。



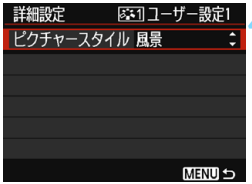
2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［**ユーザー設定＊**］を選び〈**DISP.**〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。



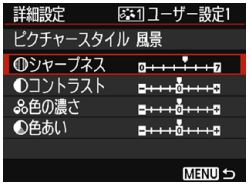
3 〈(SET)〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈(SET)〉を押します。



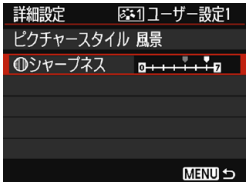
4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して基本にするスタイルを選び、〈(SET)〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



5 項目を選ぶ

- [**シャープネス**] などの項目を選び、〈SET〉を押します。



6 内容を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『画像特性を自分の好みに調整する』(p.126～128) を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ [**ユーザー設定***] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡ [**ユーザー設定***] に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

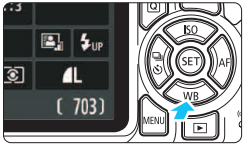
- [**ユーザー設定***] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [**カメラ設定初期化**] (p.194) を行うと、[**ユーザー設定***] に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、95ページの手順2で、[**ユーザー設定***] を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

WB: 明かりにあわせて撮影する 応用

白いものが白く写るように、色あいを補正する機能を、ホワイトバランス（WB）といいます。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、［AWB w］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、明かりの種類にあわせてホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンでは、［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます（〈🍴〉モード時は、［AWB w］（ホワイト優先））。



1 〈▼ WB〉ボタンを押す

➡ ［ホワイトバランス］が表示されます。

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈⚙〉で項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉〈⌂〉〈☁〉〈☀〉〈▦〉を選んだときに表示される「約****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

AWB オートホワイトバランスの設定

［AWB］（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。［AWB W］（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

なお、従来機種のEOSデジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、［AWB］（雰囲気優先）を選びます。

1 **〈▼WB〉ボタンを押す**

➡［**ホワイトバランス**］が表示されます。

2 **［AWB］を選ぶ**

● ［AWB］を選び〈DISP.〉ボタンを押します。

3 **項目を選ぶ**

● ［**オート（雰囲気優先）**］または［**オート（ホワイト優先）**］を選び、〈(SET)〉を押します。

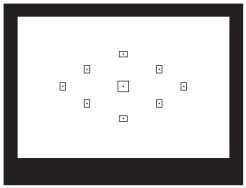
AWB ：オート（雰囲気優先）
AWB W：オート（ホワイト優先）

［AWB W］（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は［AWB］（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



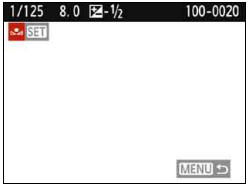
1 白い被写体を撮影する

- ファインダーの中央に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [2] タブの [**MWB画像選択**] を選び、〈SET〉を押します。

➡ MWB画像選択画面になります。

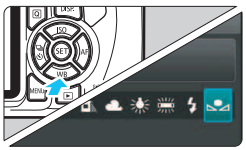


3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示されるメッセージ画面で [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。

- メニュー画面に戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。



4 [カスタムWB（マニュアル）]を選ぶ

- 〈▼WB〉ボタンを押します。
- [カスタムWB（マニュアル）]を選び〈SET〉を押します。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.96）、クリエイティブフィルター処理した画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.314）から登録するカスタムホワイトバランスは、［カスタムWB］に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

WB +/− 明かりに対する色あいを補正する 応用

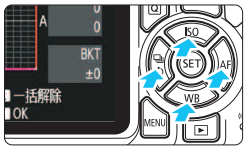
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

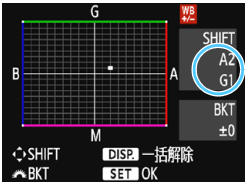
- [📷2] タブの [**WB補正/BKT設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。



2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉十字キーを押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

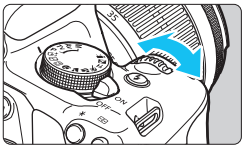
設定例：A2, G1



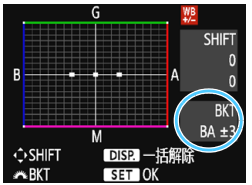
- WB補正中は、ファインダー内と液晶モニターに〈WB〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能をホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈☁〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈**DISP.**〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈㊗〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。

- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- ライブビュー撮影時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

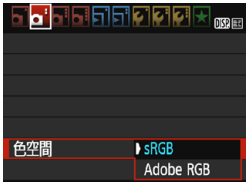
MENU 色の再現範囲を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンでは、sRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［📷2］タブの［**色空間**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 色空間を設定する

- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈(SET)〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICC プロファイルは付加されません。ICC プロファイルについては、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

MEMO

5

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.314）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

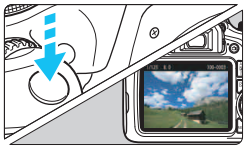
液晶モニターを見ながら撮影する

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.148）でピント合わせが行われます。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約100%（記録画質JPEG 🅛時）です。
- ライブビュー撮影時は、どの撮影モードでも、ワンショットAF（p.97）で撮影されます。
- 測光モードはライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 応用撮影ゾーンでは、[🔧3：**カスタム機能（C.Fn）**]の[**9：SETボタンの機能**]を[**4：絞り込み**]に設定し、〈SET〉を押すと、被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。

ライブビュー撮影ができないときは

［**ライブビュー撮影**］を［**する**］に設定します。

かんたん撮影ゾーンでは［📷2］、応用撮影ゾーンでは［📷4］に表示されます。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	190	180
50%ストロボ撮影	180	170

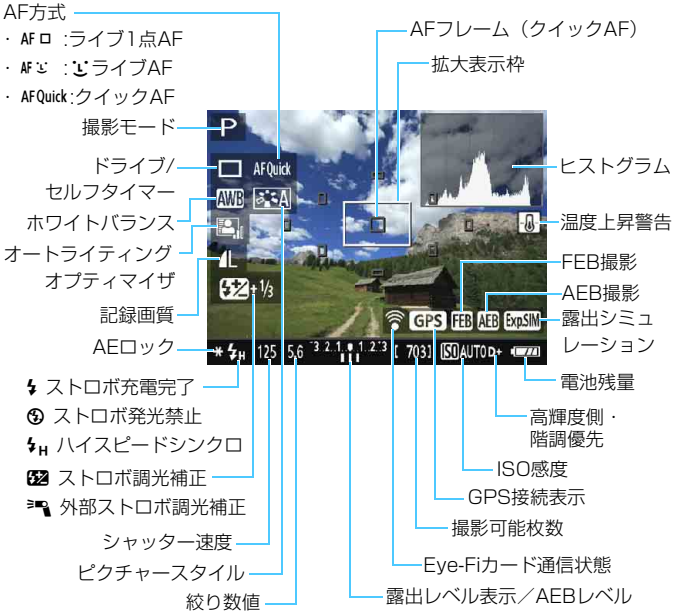
- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E10使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E10でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間25分です。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般の注意事項は、157〜158ページにまとめて記載しています。**

- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より少し長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**⚡1：オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.185）。［**しない**］に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.226）。ただし、音声は出力されません。

情報表示について

● 〈DISP.〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。



● 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。

● 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。

● ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。なお、撮影結果と若干異なる場合があります。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影
- 明かりや状況にあわせて撮影
- 色あい（〈🍴〉モード時）
- 露出
- 被写界深度（C.Fn-9-4設定、〈(SET)〉ON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

撮影機能の設定

ライブビュー撮影の機能設定について説明します。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、応用撮影ゾーンでは、**AF方式**／**ドライブ/セルフタイマー**／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／記録画質／ISO感度の設定を行うことができます。かんたん撮影ゾーンでは、太字の項目の他に75ページの表に示した設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 画面左側にクイック設定の項目が表示されます。

● AF方式が〈AF Quick〉のときは、AFフレームが表示されます。また、AFフレームを選ぶこともできます（p.154）。

2 機能を選んで設定する

● 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。

➡ 機能の内容と、機能ガイド（p.55）が画面に表示されます。

● 〈◀〉〈▶〉または〈⚙〉で設定します。なお、〈SET〉を押すとその機能の設定画面が表示されます。

● オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選び〈SET〉を押したあと、〈DISP.〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

● 〈Q〉ボタンを押して、ライブビュー撮影に戻ります。

応用撮影ゾーンでは、［**3：カスタム機能（C.Fn）**］の［**10：ストロボボタンの機能**］が［**1：ISO感度**］に設定されているときは、クイック設定でストロボアップができます。ISO感度は〈⚡〉ボタンで設定することができます。

メニュー機能の設定

メニューに表示される各項目の内容は、下記のとおりです。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

かんたん撮影ゾーンでは［📷2］、応用撮影ゾーンでは［📷4］に表示されます。

● **ライブビュー撮影**

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AF方式**

［**ライブ1点AF**］、［**ライブAF**］、［**クイックAF**］が選択できます。AF方式については、148～155ページを参照してください。

● **グリッド**

［**グリッド1**＃］または［**グリッド2**▦］で格子線を表示することができます。水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。

● アスペクト比 応用

画像のアスペクト比（縦横比率）を［3:2］［4:3］［16:9］［1:1］から選択することができます。［4:3］［16:9］［1:1］のときは、撮影範囲外が黒くマスキングされた状態でライブビュー映像が表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW画像は、常に［3:2］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。なお、［4:3］［16:9］［1:1］では、再生時にアスペクト比を示した線が表示されますが、この線は撮影画像には記録されません。

記録画質	アスペクト比と記録画素数（約）			
	3:2	4:3	16:9	1:1
L	5184×3456 （1790万）	4608×3456 （1600万）	5184×2912* （1510万）	3456×3456 （1190万）
M	3456×2304 （800万）	3072×2304 （700万）	3456×1944 （670万）	2304×2304 （530万）
S1	2592×1728 （450万）	2304×1728 （400万）	2592×1456* （380万）	1728×1728 （300万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×400* （29万）	480×480 （23万）

- 「*」印の付いた記録画質は、正確なアスペクト比になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲よりもわずかに広い範囲が表示されます。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、他のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

● 測光タイマー 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。なお、かんたん撮影ゾーンのときは8秒固定です。

次の操作を行うとライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度〈📷〉ボタンを押してください。
- ［📷3：ダストデリートデータ取得］［🔧2：手作業でクリーニング］［🔧3：設定解除］［🔧3：ファームウェア］を選んだとき
- 撮影モードを切り換えたとき（かんたん撮影ゾーン⇔応用撮影ゾーン）

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、[**ライブ1点AF**]、[**ライブAF**]（顔優先／p.149）、[**クイックAF**]（p.154）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.156）。

AF方式を選ぶ

- [📷4] タブの [**AF方式**] を選びます（かんたん撮影ゾーンは、[📷2] タブ）。
- AF方式を選び、〈(SET)〉を押します。
- ライブビュー映像表示中に〈Q〉ボタンを押して、クイック設定（p.144）でAF方式を選ぶこともできます。

ライブ1点AF：AF □

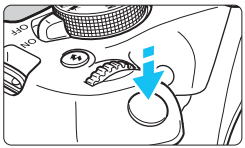
撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックAF」よりもピント合わせに時間がかかります。**また、「クイックAF」よりもピントが合いにくいことがあります。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを移動する

- 〈✥〉十字キーを押して、AFフレームをピントを合わせたい位置に動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈(SET)〉を押すと、AFフレームが画面中央に戻ります（C.Fn-9設定時は、〈Av／🗑〉ボタンを押しながら〈(SET)〉を押す）。



3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.140）。

（顔優先）ライブAF：AF

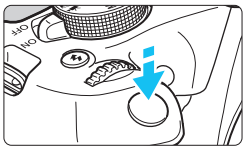
ライブ1点AFと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈[ ]〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈[ ]〉が表示されます。〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい顔に〈[ ]〉を合わせます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈[ ]〉の顔にピント合わせが行われます。
  - ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
  - ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AFフレーム〈[ ]〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.140）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈[ ]〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈(SET)〉を押すと、[**ライブ1点AF**]（p.148）に切り換わり、〈✥〉十字キーでAFフレームを移動することができます。もう一度〈(SET)〉を押すと、[**(顔優先) ライブAF**] に戻ります（C.Fn-9設定時は、〈Av⊿/🗑〉ボタンを押しながら〈(SET)〉を押す）。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈[ ]〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈[ ]〉でピント合わせが行われます。

【ライブ1点AF】【ライブAF】に関するおことわり

AFの動作について

- ［**クイックAF**］よりもピント合わせに時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- 動いている被写体にピントを合わせ続けて撮影することはできません。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。

拡大表示について

- ［**ライブ1点AF**］設定時は、〈🔍〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピント合わせが行われます。カメラを三脚に取り付けて厳密にピント合わせしたいときに効果的です。なお、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。また、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ［**ライブ1点AF**］設定時に、通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- ［**ライブAF**］設定時は、拡大表示できません。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

- 前ページの撮影条件でピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行ってください。
- 以下のレンズでAFを行うときは、［**クイックAF**］をおすすめします。［**ライブ1点AF**］［**ライブAF**］でAFを行うと、ピントが合うまでの時間が長くなったり、適切なピント合わせができないことがあります。
  EF50mm F1.4 USM、EF50mm F1.8 II、EF50mm F2.5 コンパクトマクロ、EF100mm F2.8 マクロ USM、EF75-300mm F4-5.6 III、EF75-300mm F4-5.6 III USM
  その他のレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。

- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

クイックAF：AFQuick

ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.97）でピント合わせを行います。

ピントを素早く合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

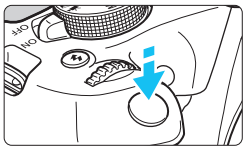
9点のAFフレームでピント合わせができます（自動選択）。また、ピント合わせを行うAFフレームを1つ選び、その枠を合わせたところだけにピントを合わせることができます（任意選択）。

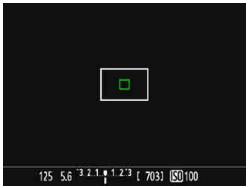
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠がAFフレームで、大きい枠が拡大表示枠です。

2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈Q〉ボタンを押して（⏱10）、クイック設定の状態にします。
- ➡ 画面の左側に設定できる機能が表示されます。
- 〈▲〉〈▼〉を押してAFフレームが選択された状態にします。
- 〈🎛〉を回してAFフレームを選びます。





3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます（撮影は行われません）。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせに使用したAFフレームが緑色に変わり、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり点滅します。

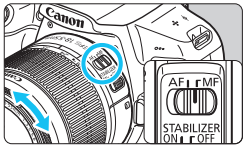
4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.140）。

AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

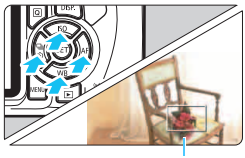
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

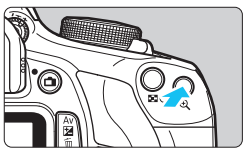
- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい場所に、〈✥〉十字キーで拡大表示枠を移動します。
- 〈㊗〉を押すと、画面中央に戻ります（C.Fn-9設定時は、〈Av/🗑〉ボタンを押しながら〈㊗〉を押す）。



3 映像を拡大する

- 〈🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 枠内が拡大表示されます。
- 〈🔍〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 5倍 → 10倍 → 通常表示 ┐

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.140）。

ライブビュー撮影全般の注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、ライブビュー撮影を一時休止する、または一旦電源を切り、しばらく休止してください
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示される手前でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値がオレンジ色で表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

ライブビュー撮影全般の注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.259）。

レンズとストロボについて

- ライブビュー撮影時に、（超）望遠レンズのフォーカスプリセットはできません。
- 内蔵／外部ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にモデリング発光はできません。

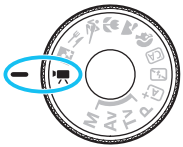
⚠ 警告

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

6

動画を撮影する



モードダイヤルを〈🎥〉にすると、動画撮影ができるようになります。記録形式はMOV形式です。

● 動画が記録できるカードについては、５ページを参照してください。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

FULL HD 1080

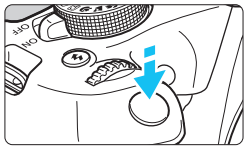
動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします（p.226）。

自動露出で撮影する

1 モードダイヤルを〈🎥〉にする

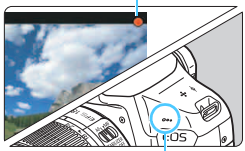
➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。



2 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.148～156）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

動画撮影中



内蔵マイク

3 動画を撮影する

- 〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

➡ 動画撮影中は画面右上に［●］が表示されます。

➡ 音声は内蔵マイクで記録されます。

- **動画撮影全般の注意事項は、181～182ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて157～158ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。**

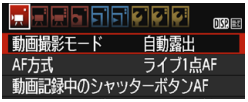
- ISO感度（100～6400）とシャッター速度、絞り数値は自動設定されます。
- 〈✱〉ボタン（p.120）を押すと、露出を固定（AEロック）することができます。［**2：測光タイマー**］の設定時間に応じて露出値が表示されます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈Av⊠〉ボタンを押しながら〈☁〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- 自動露出で撮影した動画の画像情報（Exif情報）には、ISO感度とシャッター速度、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、自動露出で動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

マニュアル露出で撮影する

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

1 モードダイヤルを〈🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。



2 [動画撮影モード] を選ぶ

● 〈MENU〉ボタンを押して、[🎥1] タブの [**動画撮影モード**] を選び、〈(SET)〉を押します。

3 [マニュアル露出] を選ぶ

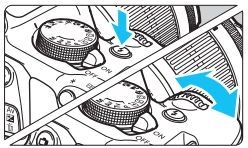
➡ [**マニュアル露出**] を選び、〈(SET)〉を押します。

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

● シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈 〉により異なります。

・ 、 、 ：1/4000～1/30秒
・ 、 ：1/4000～1/60秒

● 絞り数値は、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を回して設定します。



5 ISO感度を設定する

● 〈⚡〉ボタンを押し、〈◀〉〈▶〉または〈 〉でISO感度を選びます。

● ISO感度については、次ページを参照してください。

6 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出で撮影する』の手順2、3と同じです（p.160）。

マニュアル露出撮影時のISO感度について

- ［Auto］のときは、ISO100～6400の範囲で自動設定されます。
- 手動設定のときは、ISO100～6400の範囲で、1段ステップで設定することができます。
- ［**1：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは、ISO 感度がISO200～6400になります。

- AEロック、露出補正はできません。
- 動画撮影中に、シャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISO感度を自動設定にすると、明るさが変化しても、ある程度適正露出で動画撮影を行うことができます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。

情報表示について

● 〈DISP.〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。

AF方式
・ AF□ :ライブ1点AF
・ AF :ライブAF
・ AFQuick :クイックAF

ピクチャースタイル
動画撮影可能時間／撮影経過時間
AFフレーム（クイックAF）
動画撮影モード
動画撮影中
ホワイトバランス
拡大表示枠
オートライティング
オプティマイザ
温度上昇警告
動画記録サイズ
ビデオスナップ
録音レベル・
手動設定
電池残量
AEロック
露出モード
：自動露出
：マニュアル
露出
LEDライト
フレームレート
高輝度側・
階調優先
シャッター速度
絞り数値
ISO感度
露出レベル表示
GPS接続表示
ビデオスナップ撮影時間
Eye-Fiカード通信状態

● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。
● 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影時共通事項

> ⚠ 警告
> **長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。**
> 熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- [動1：**動画記録中のシャッターボタンAF**]を[**する**]に設定すると（p.176）、動画撮影中にシャッターボタンを半押ししてAFを行うことができますが、以下の現象が起きることがあります。
  - 一時的にピントが大きくぼける
  - 動画の明るさが変化して記録される
  - 動画が一瞬停止して記録される
  - レンズの作動音が記録される
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 〈AWB〉〈AWB W〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中に〈🔍〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 内蔵マイク（p.160）を指などでふさがないようにしてください。
- **動画撮影全般の注意事項は、181～182ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて157～158ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。**

- メニューの［1］［2］［3］タブで、動画撮影に関する設定を行うことができます（p.176）。
- 1回撮影するごとに、1ファイルが記録されます（p.169）。
- 映像の視野率は、約100%（動画記録サイズ時）です。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.160）でモノラル録音されます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E10で動画撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間15分、低温（0℃）：合計約1時間10分です。
- 動画撮影時に、（超）望遠レンズのフォーカスプリセットはできません。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先

静止画撮影について

動画撮影モードでは、静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、モードダイヤルを回してほかの撮影モードに変更してください。

撮影機能の設定

動画撮影の機能設定について説明します。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、AF方式／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／動画記録サイズ／ビデオスナップの設定を行うことができます。

ライブ1点AF

1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

● AF方式が〈AF Quick〉のときは、AFフレームが表示されます。また、AFフレームを選ぶこともできます（p.154）。

2 機能を選んで設定する

● 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。

➡ 機能の内容と、機能ガイド（p.55）が画面に表示されます。

● 〈◀〉〈▶〉または〈🎛〉で設定します。なお、〈SET〉を押すとその機能の設定画面が表示されます。

● オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選び〈SET〉を押したあと、〈DISP.〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

● 〈Q〉ボタンを押して、動画撮影に戻ります。

マニュアル露出時は、ISO感度も設定することができます。

MENU 動画記録サイズの設定

［🎥2：**動画記録サイズ**］で、動画の画像サイズ［****x****］と、フレームレート［FR］（1秒間に何コマ記録するか）を選ぶことができます。なお、FR（フレームレート）は、［🎥2：**ビデオ方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

● **画像サイズ**

［1920×1080］（FHD）：フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の縦横比は16：9です。

［1280×720］（HD）：ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の縦横比は16：9です。

［640×480］（VGA）：標準画質で記録します。画面の縦横比率は 4:3 です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

FR30/FR60：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

FR25/FR50：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

FR24：主に、映画関連で使用します。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安　（約）

動画記録サイズ		カードごとの総記録時間			ファイルサイズ
		4GB	16GB	64GB	
[1920×1080]	30	11分	44分	2時間59分	340MB/分
	25				
	24				
[1280×720]	60	11分	44分	2時間59分	340MB/分
	50				
[640×480]	30	42分	2時間50分	11時間20分	90MB/分
	25				

● **ファイルサイズが4GBに達したときについて**

ファイルシステムの制約により、動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈📷〉ボタンを押すと動画撮影を再開します（新規ファイルとして記録されます）。

● **撮影時間の制限について**

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈📷〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

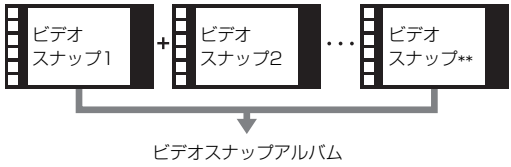
カメラ内部の温度上昇により、上記の表で示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.181）。

MENU ビデオスナップを撮影する

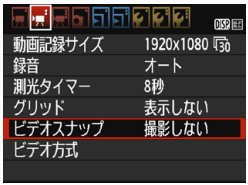
1シーンが数秒間（約2/4/8秒）の短い動画「ビデオスナップ」（以下スナップ）を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの想い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。

できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（p.174、219）。

ビデオスナップアルバムの概念



1スナップの撮影時間を決める



1 **［ビデオスナップ］を選ぶ**

- ［🎥2］タブの［**ビデオスナップ**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 **［ビデオスナップ］の撮影時間を選ぶ**

- 1スナップの撮影時間を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、動画撮影画面に戻ります。

スナップを撮影してアルバムを作る

3 最初のスナップを撮影する

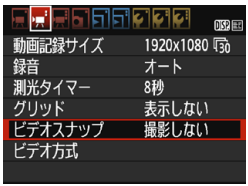
- 〈📷〉ボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- ➡ 確認画面が表示されます（p.172）。

4 アルバムとして保存する

- ［**アルバムとして保存**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ アルバムの先頭スナップとして保存されます。

5 続けてスナップを撮影する

- 手順3と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- ［**アルバムに追加する**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- 別のアルバムを作るときは、［**新しいアルバムとして保存**］を選びます。
- 必要に応じて手順5を繰り返します。



6 ビデオスナップ撮影を終了する

- ［**ビデオスナップ**］を［**撮影しない**］に設定します。**通常の動画を撮影するときは、［撮影しない］に設定してください。**
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

手順4、手順5の確認画面について

項目	内容
アルバムとして保存（手順4）	アルバムの最初のスナップとして保存します。
アルバムに追加する（手順5）	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存（手順5）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。確認画面で［OK］を選びます。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する（手順4、手順5）	いま撮影したスナップを再生します。再生操作の内容は、下表を参照してください。
アルバムとして保存しない（手順4） **アルバムに追加しないで消去**（手順5）	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で［OK］を選びます。

［撮影したスナップを再生する］の再生操作

項目	再生内容
終了	前の画面に戻ります。
再生	〈(SET)〉を押すたびに、いま撮影したスナップの再生／停止を繰り返します。
先頭フレーム	アルバムの最初のスナップの先頭画面を表示します。
前スキップ*	〈(SET)〉を押すたびに、数秒前の画面に戻します。
フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると、早送りします。
次スキップ*	〈(SET)〉を押すたびに、数秒後の画面に送ります。
最終フレーム	アルバムの最後のスナップの最終画面を表示します。
▬▬	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒）
音量	〈(dial)〉を回すと、内蔵スピーカー（p.218）の音量を調整することができます。

*［**前スキップ**］［**次スキップ**］は、撮影時に設定した［**ビデオスナップ**］の時間（約2/4/8秒間撮影）分、画面を戻したり、送ったりします。

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

- 1つのアルバムには、同じ撮影時間（約2/4/8秒のいずれか）のスナップしか追加できません。
- スナップ撮影の途中で、以下の操作を行うと、次に撮影するスナップから新規のアルバムになります。
  - ・［**動画記録サイズ**］を変更したとき（p.168）
  - ・［**ビデオスナップ**］の撮影時間を変更したとき（p.170）
  - ・［**録音**］の設定を、［**オート/マニュアル**］から［**しない**］、または［**しない**］から［**オート/マニュアル**］に変更したとき（p.178）
  - ・ カード/電池室ふたを開閉したとき
  - ・ ファームウェアの変更を行ったとき
- アルバム内のスナップの順序の入れ換えはできません。
- あとで撮影したスナップを、既存のアルバムに追加することはできません。
- 1スナップの撮影時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

アルバムを再生する

できあがったアルバムは、通常の動画と同じ方法で再生することができます（p.218）。

1 動画を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 アルバムを選ぶ

- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像がアルバムです。
- 〈◀〉〈▶〉を押してアルバムを選び、〈㊗〉を押します。

3 再生する

- 表示された動画再生パネルの［▶］（再生）を選び、〈㊗〉を押します。

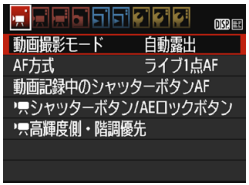
BGMについて

- カメラでアルバムや通常の動画を再生するときや、スライドショーで再生するときに、BGMと一緒に再生することができます（p.174、219）。あらかじめEOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、BGMをカードにコピーしておく必要があります。カードへのコピー方法は、EOS Utility使用説明書を参照してください。
- メモリーカードに取り込んだ音楽は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。十分ご注意ください。

MENU メニュー機能の設定

メニューの［📹1］［📹2］［📹3］タブに表示される各項目の内容は、下記のとおりです。

［📹1］



● **動画撮影モード**

通常は、［**自動露出**］を選択します。

［**マニュアル露出**］を設定すると、任意にISO感度、シャッター速度、絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます（p.162）。

● **AF方式**

148～155ページで説明しているAF方式と同じです。［**ライブ1点AF**］、［**ライブAF**］、［**クイックAF**］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

● **動画記録中のシャッターボタンAF**

［**する**］に設定すると、動画撮影中にAFができます。なお、連続的なピント合わせはできません。また、このAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあります。また、レンズの作動音も記録されます。

なお、動画撮影時にAF方式が［**クイックAF**］のときは、［**ライブ1点AF**］でAFが行われます。

● **［📹1］［📹2］［📹3］タブで設定した内容は、〈📹〉モード時のみ有効です。〈📹〉モード以外の撮影モードには反映されません。**
● 設定した［**AF方式**］は、ライブビュー撮影にも反映されます。

● **シャッターボタン/AEロックボタン**

シャッターボタン半押しと、AEロックボタンに割り当てられている機能を変更することができます。

・AF/AEロック：

通常の設定です。シャッターボタン半押しでAFを行います。〈✱〉ボタンで露出を固定（AEロック）することができます。

・AEロック/AF：

シャッターボタン半押しで露出を固定（AEロック）します。AFは〈✱〉ボタンで行います。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

・AF/AFロック（AEロックなし）：

シャッターボタン半押しでAFを行います。シャッターボタン半押しでAF動作中に〈✱〉ボタンを押すと、AFを一時停止することができ、〈✱〉ボタンを離すとAF動作を再開します。なお、AEロックはできません。

・AE/AF（AEロックなし）：

シャッターボタン半押しで測光します。AFは〈✱〉ボタンで行います。なお、AEロックはできません。

● **高輝度側・階調優先**

［**する**］に設定すると、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。なお、ISO感度の設定範囲はISO200～6400になります。また、オートライティングオプティマイザは［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。

[🎥2]

● **動画記録サイズ**

動画記録画質（画像サイズ、フレームレート）を設定することができます。詳しくは、168ページを参照してください。

● **録音**

レベルメーター

内蔵のモノラルマイクで音声が録音されます。外部マイクは使用できません。

［**録音**］［**録音レベル**］の項目

［**オート**］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

［**マニュアル**］：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。

［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◀〉〈▶〉を押して、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

［**しない**］　：録音は行われません。

［ウィンドカット］
　［入］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。
　ただし、［入］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［切］に設定することをおすすめします。［入］のときよりも自然な音で録音されます。

音声は、サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

● **測光タイマー**
　露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● **グリッド**
　［グリッド1 ＋］または［グリッド2 #］で格子線を表示することができます。水平、垂直の傾きを確認することができます。

● **ビデオスナップ**
　ビデオスナップを撮影することができます。機能の詳細は、170ページを参照してください。

● **ビデオ方式**
　テレビの映像方式に合わせて、［NTSC］［PAL］から選択します（p.168）。

設定した「測光タイマー」「グリッド」は、ライブビュー撮影にも反映されます。

[🎥3]

- **露出補正**
  ±3段の露出補正量が設定できます。

- **オートライティングオプティマイザ**
  123ページで説明したオートライティングオプティマイザが設定できます。
  なお、[🎥1] タブの [🎥**高輝度側・階調優先**] を [**する**] に設定すると、オートライティングオプティマイザが [**しない**] に自動設定され、設定変更ができなくなります。

- **MWB画像選択**
  133ページで説明したマニュアルホワイトバランス用の画像選択を行います。

- **ピクチャースタイル**
  95ページで説明したピクチャースタイルが設定できます。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、赤い〈🌡〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い〈🌡〉が表示されます。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化したときは、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。

動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。

インジケーター

再生とテレビ接続について

- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.226）して［1920×1080］、［1280×720］の動画撮影を行うと、撮影中テレビに表示される映像のサイズが小さくなります。ただし、設定どおりの動画記録サイズで正常に記録されます。
- カメラとテレビを接続（p.226）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

7

知っていると便利な機能

- 電子音が鳴らないようにする（p.184）
- カードの入れ忘れを防止する（p.184）
- 撮影直後の画像表示時間を設定する（p.184）
- 電源が切れるまでの時間を設定する（p.185）
- 液晶モニターの明るさを調整する（p.185）
- フォルダの作成と選択（p.186）
- 画像番号の付け方を設定する（p.188）
- 著作権情報の設定（p.190）
- 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定（p.192）
- カメラの設定内容を確認する（p.193）
- カメラの機能設定を初期状態に戻す（p.194）
- 液晶モニターの消灯/点灯の設定（p.197）
- 撮影機能の設定状態の画面の色を変える（p.197）
- ストロボの機能を設定する（p.198）
- ゴミ消し情報を画像に付加する（p.202）
- 手作業で撮像素子を清掃する（p.204）

普段使う上で便利な機能

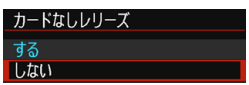
MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときやセルフタイマー撮影時に、電子音が鳴らないようにすることができます。

［📷1］タブの［**電子音**］を選び、〈(SET)〉を押します。［**切**］を選び〈(SET)〉を押します。

MENU カードの入れ忘れを防止する

カードが入っていないときに、撮影ができないようにすることができます。



［📷1］タブの［**カードなしレリーズ**］を選び、〈(SET)〉を押します。［**しない**］を選び〈(SET)〉を押します。

カードを入れないでシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**Card**」が表示されてシャッターが切れません。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。［**切**］に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。［**ホールド**］に設定すると、［**🔧1：オートパワーオフ**］の時間まで画像が表示されます。

なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。

［📷1］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

MENU 電源が切れるまでの時間を設定する

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が切れるまでの時間を変更することができます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しするか、〈MENU〉〈DISP.〉〈▶〉〈📷〉ボタンなどを押すと電源が入ります。

［しない］に設定したときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP.〉ボタンを押して液晶モニターの表示を消すことをおすすめします。

なお、［しない］の設定でもカメラを30分間放置すると、液晶モニターが消灯します。液晶モニターを点灯するときは、〈DISP.〉ボタンを押してください。

［🔧1］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

［🔧2］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈(SET)〉を押します。調整画面で〈◀〉〈▶〉を押して明るさを調整し、〈(SET)〉を押します。

露出を確認するときは、目盛を4の位置にして、なるべく周りの光の影響を受けないようにしてください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

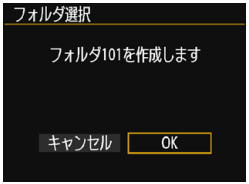
フォルダの作成

1 ［フォルダ選択］を選ぶ

- ［1］タブの［**フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［フォルダ作成］を選ぶ

- ［**フォルダ作成**］を選び〈SET〉を押します。



3 フォルダを作成する

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が 1 つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、フォルダを選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.189）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

画像番号は、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンでは **IMG_0001.JPG** というような形で表示されます。

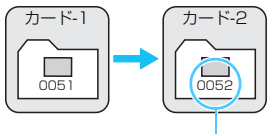
［**1**］タブの［**画像番号**］を選び、〈(SET)〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈(SET)〉を押します。

● **［通し番号］：カードの交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき**

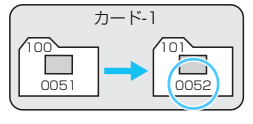
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合



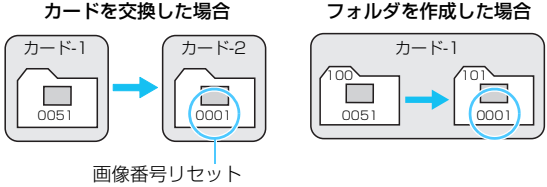
フォルダを作成した場合



● **[オートリセット]：カードの交換やフォルダ作成で、画像番号を 0001 にしたいとき**

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



● **[強制リセット]：任意に画像番号を 0001 にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき**

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 著作権情報の設定 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に付加されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［3］タブの［**著作権情報**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 文字の入力画面が表示されます。
- ［**著作権情報の表示**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報が確認できます。
- ［**著作権情報の消去**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報を消去できます。

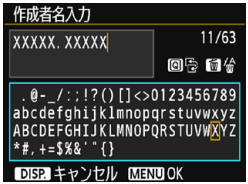
3 文字を入力する

- 次ページの『文字の入力方法』を参照し、著作権情報を入力します。
- 半角英数字／記号で最大63文字入力することができます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

文字の入力方法



● **入力エリアの切り換え**
〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

● **カーソルの移動**
〈◀〉〈▶〉を押すとカーソルが移動します。

● **文字の入力**
下側のエリアで〈✣〉十字キーまたは〈⚙〉で文字を選び、〈(SET)〉を押して文字を入力します。

● **文字の削除**
〈🗑〉ボタンを押すと1文字消去されます。

● **入力の終了**
〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

● **入力のキャンセル**
〈DISP.〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.314）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

---

［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- **［する 📷 🖥］**：カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **［する 🖥］**　：パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **［しない］**　：自動回転させたくないとき

? こんなときは

- **撮影直後に表示される画像が回転表示されない**
  〈▶〉ボタンを押して、画像を再生したときに回転表示が行われます。
- **［する 📷 🖥］にして再生しても回転表示されない**
  ［**しない**］の設定で撮影した画像は回転表示されません。また、カメラを上や下に向けて撮影すると、回転表示が正しく行われないことがあります。その場合は、211ページの『回転させる』の操作で画像を回転させることができます。
- **［する 🖥］で撮影した画像をカメラで回転表示させたい**
  ［**する** 📷 🖥］に設定して再生すると、回転表示が行われます。
- **パソコンの画面で回転表示されない**
  回転表示に対応していないソフトウェアです。EOS用のソフトウェアを使用してください。

DISP. カメラの設定内容を確認する

メニュー画面表示中に〈DISP.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている主な機能の内容を確認することができます。

- メニュー画面を表示した状態で、〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- もう一度〈DISP.〉ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

設定内容表示

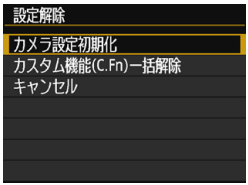
カードの空き容量
色空間（p.137）
WB補正（p.135）/
WBブラケティング（p.136）
ライブビュー撮影（p.139）
赤目緩和（p.106）
縦位置画像回転表示（p.192）
日付/時刻（p.41）
サマータイム（p.42）
電子音（p.184）
オートパワーオフ（p.185）

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。

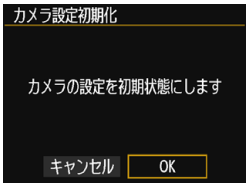
1 [設定解除] を選ぶ

● [3] タブの [**設定解除**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [カメラ設定初期化] を選ぶ

● [**カメラ設定初期化**] を選び〈(SET)〉を押します。



3 [OK] を選ぶ

● [OK] を選び〈(SET)〉を押します。

➡ [**カメラ設定初期化**] を行うと、カメラの設定が次ページのようになります。

? こんなときは

● **すべての設定を初期状態に戻したい**

上記操作を行ったあと、[3：**設定解除**] で [**カスタム機能 (C.Fn) 一括解除**] を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます (p.258)。

撮影機能

AF動作	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
ドライブ/セルフタイマー	□（1枚撮影）
測光モード	⧀（評価測光）
ISO感度	AUTO（オート）
ISOオート	上限3200
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	そのまま

画像記録

記録画質	◢L
ピクチャースタイル	オート
オートライティングオプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（雰囲気優先）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
画像番号	通し番号
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	30秒
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ヒストグラム	輝度
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
液晶の消灯/点灯	半押し連動
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
撮影機能画面の色	1
機能ガイド	表示する
著作権情報	そのまま
Eye-Fi通信	しない
Wi-Fi/NFC	使わない
Wi-Fi機能	そのまま
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF方式	ライブ1点AF
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
測光タイマー	8秒

動画撮影

動画撮影モード	自動露出
AF方式	ライブ1点AF
動画記録中のシャッターボタンAF	しない
シャッターボタン/AEロックボタン	AF/AEロック
高輝度側・階調優先	しない
動画記録サイズ	1920×1080
録音	オート
測光タイマー	8秒
グリッド	表示しない
ビデオスナップ	撮影しない
ビデオ方式	そのまま
露出補正	解除
オートライティングオプティマイザ	標準
MWB画像選択	解除
ピクチャースタイル	オート

Wi-Fi/NFCの設定については、無線機能 使用説明書を参照してください。

MENU 液晶モニターの消灯/点灯の設定

撮影機能の設定状態（p.54）の表示が、シャッターボタンの半押し（または〈✱〉ボタンを押す）に連動して、消えたり点いたりしないようにすることができます。

［2］タブの［液晶の消灯/点灯］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- **［半押し連動］**：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- **［半押し/DISP.］**：半押しすると表示が消え、指を離しても表示されません。〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- **［消灯しない］**：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈DISP.〉ボタンを押します。

MENU 撮影機能の設定状態の画面の色を変える

撮影機能の設定状態の画面の背景色を変えることができます。

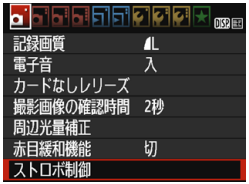
［1］タブの［撮影機能画面の色］を選び、〈SET〉を押します。表示される画面で色を選び、〈SET〉を押します。

メニューを終了すると、選んだ色をベースにした撮影機能の設定状態の画面が表示されます。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面から行うことができます。なお、外部ストロボに関するメニューは、**外部ストロボ機能設定に対応したEXスピードライト装着時**のみ有効です。

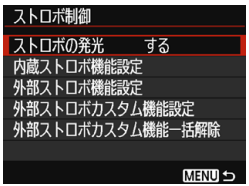
設定操作の方法は、カメラのメニュー機能と同じです。



[ストロボ制御] を選ぶ

- [📷1]タブの[**ストロボ制御**]を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

[ストロボの発光] について

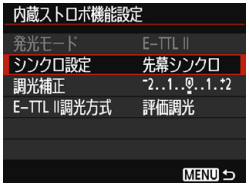


- 通常は、[**する**] を選びます。
- **[しない] を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

[**ストロボの発光**] を [**しない**] に設定しても、暗い場所などAFでピントが合いにくいときは、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります（AF補助光／p.100）。

[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定]

[**内蔵ストロボ機能設定**] と [**外部ストロボ機能設定**] では、下の表に示す機能を設定することができます。なお、[**外部ストロボ機能設定**] で表示される機能は、使用するストロボによって異なります。



- [**内蔵ストロボ機能設定**] または [**外部ストロボ機能設定**] を選びます。

➡ 機能が表示されます。明るく表示されている機能が選択・設定できます。

[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定] で設定できる機能

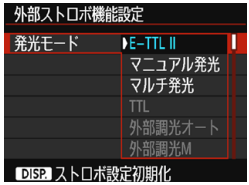
機能	[内蔵ストロボ機能設定]	[外部ストロボ機能設定]	参照頁
発光モード	E-TTL II 固定	○	200
シンクロ設定	○		200
FEB*	—	○	—
調光補正	○		117
E-TTL II調光方式	○		200
ズーム*	—	○	—
ワイヤレス機能*	—	○	—

* [**FEB**]（フラッシュエクスポージャーブラケティング）、[**ズーム**]、[**ワイヤレス機能**] については、それぞれの機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

- 電波通信ワイヤレスストロボ撮影時のご注意
  - ・カメラから電波通信ワイヤレスストロボ撮影の設定はできません。ストロボ側で設定してください。
  - ・ストロボの同調シャッター速度は、1/100秒以下にしてください。
  - ・ハイスピードシンクロ撮影はできません。
  - ・グループ発光はできません。
- 使用するストロボによって、カメラから [**発光モード**] と [**ズーム**] [**マルチ発光**] の一部設定ができないことがあります。その場合は、ストロボ側で設定してください。

● **発光モード**

外部ストロボ使用時は、撮影目的に応じて発光モードを選ぶことができます。



- [**E-TTL II**]は、ストロボの自動撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。
- [**マニュアル発光**]は、ストロボの発光量を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。
- そのほかの発光モードについては、その発光モードに対応した外部ストロボの使用説明書を参照してください。

● **シンクロ設定**

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する[**先幕シンクロ**]に設定します。

[**後幕シンクロ**]に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、E-TTL II（自動調光）時は、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。また、シャッター速度が1/30秒以上のときは、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

外部ストロボ使用時は、[**ハイスピード**]（$\mathrm{ϟ_H}$）も選択できます。詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● **調光補正**

117ページの『ストロボ調光補正を使って撮影する』を参照してください。

● **E-TTL II調光方式**

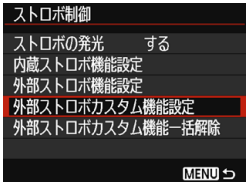
通常は、標準的なストロボ露出が得られる[**評価調光**]に設定します。[**平均調光**]は上級者向けの設定です。外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

● **ストロボ設定の初期化**

［**外部ストロボ機能設定**］の画面で〈DISP.〉ボタンを押すと、ストロボ設定の初期化画面が表示されます。**［OK］を選ぶと外部ストロボと内蔵ストロボの設定が初期化されます。**

外部ストロボのカスタム機能を設定する

［**外部ストロボカスタム機能設定**］で表示される内容は、使用するストロボによって異なります。



1 カスタム機能を表示する

● ［**外部ストロボカスタム機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 カスタム機能を設定する

● 〈◄〉〈►〉を押して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（p.258）。

● カスタム機能をすべて解除するときは、手順1で［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］を選びます。

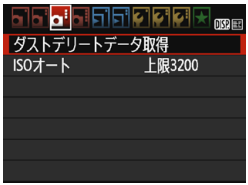
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

カメラの内部に入り込んだゴミが、撮像素子に付着して、画像に写り込むことがあります。そのときに備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.314）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

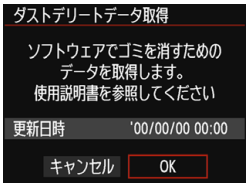
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する



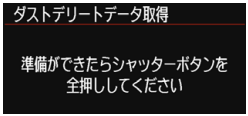
1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

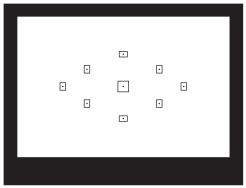
- ［📷3］タブの［**ダストデリートデータ取得**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

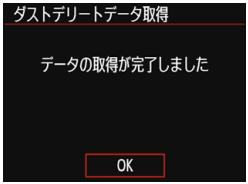
- ［OK］を選び〈(SET)〉を押すと、説明画面が表示されます。





3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、(模様などがない) 真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。
- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  [OK] を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。



ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.314）による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

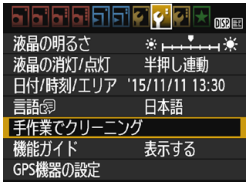
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

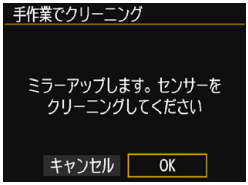
撮像素子にゴミやほこりが付いて、画像に写り込んだときは、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口にお申し付けください。



1 [手作業でクリーニング] を選ぶ

- [2] タブの [**手作業でクリーニング**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 少し間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。

3 撮像素子を清掃する

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

電源には、DCカプラー DR-E10（別売）とコンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）の使用をおすすめします。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・カード/電池室ふたを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因となります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

MEMO

8

画像の再生

この章では、第2章の『かんたん撮影と画像確認』で説明した再生方法の応用的な使い方や、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

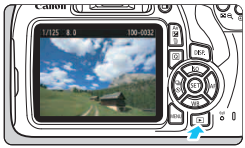
他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 見たい画像を素早く探す

▪ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈▪🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- もう一度〈▪🔍〉ボタンを押すと、9枚表示になります。
- 〈🔍〉ボタンを押すと、9枚→4枚→1枚表示になります。

3 画像を選ぶ

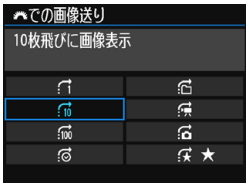
- 〈✥〉十字キーでオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈◌〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈(SET)〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈☁〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。

1 [☁での画像送り]を選ぶ

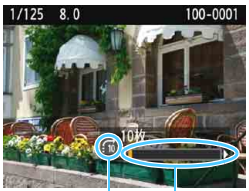
- [▶2]タブの[☁での画像送り]を選び、〈SET〉を押します。



2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押して、ジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。

1：1枚ずつ画像表示
10：10枚飛びに画像表示
100：100枚飛びに画像表示
：撮影日を切り換えて画像を表示
：フォルダを切り換えて画像を表示
：動画だけを表示
：静止画だけを表示
★：指定したレーティングの画像を表示（p.212）
〈☁〉を回して選びます。



ジャンプ方法
再生位置

3 画像送りをする

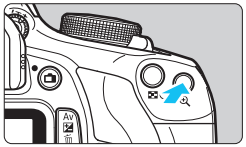
- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈☁〉を回します。

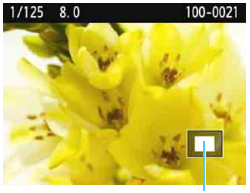
➡ 設定した方法で画像が送られます。

- [撮影日]は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- [フォルダ]は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- [動画][静止画]は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- [レーティング]で対象となる画像がないときは、〈☁〉を回しても画像送りは行われません。

拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

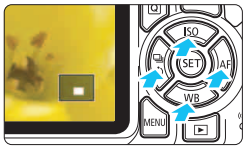




拡大表示位置

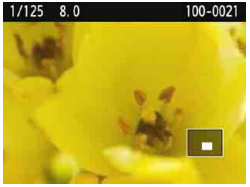
1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈🔍+〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈🔍+〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈🔍-〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。



2 表示位置を移動する

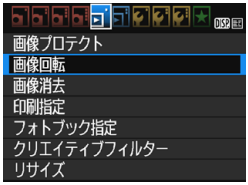
- 〈✥〉十字キーを操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。



- 拡大表示中に〈⚙〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後に表示された画像は、拡大表示できません。
- 動画は拡大表示できません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。



1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像回転**］を選び、〈㊗〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して回転する画像を選びます。
- インデックス表示（p.208）にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

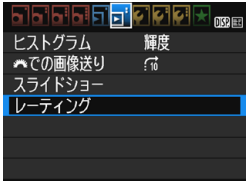
- 〈㊗〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- ［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］（p.192）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］に設定します。
- 動画は回転できません。

MENU お気に入りのレベルを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[•:]/[:]/[::]/[:::]）を付加することができます。この機能をレーティングといいます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。



1 [レーティング] を選ぶ

- [▶2] タブの [**レーティング**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して、お気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 〈▪ Q〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈Q〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

3 お気に入り情報を付ける

- 〈▲〉〈▼〉を押して、お気に入りマークを選びます。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、[###]と表示されます。

お気に入り情報の利用方法

- [▶2：**での画像送り**]で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- [▶2：**スライドショー**]で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.314）で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを選択することができます（静止画のみ）。
- パソコンのOSによっては、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます（JPEG画像のみ）。

Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら**【🔑：画像プロテクト】**［🔄：画像回転］**【★：レーティング】**［🎨：クリエイティブフィルター］［🖼：リサイズ（JPEG画像のみ）］**【📡：☁での画像送り】**の設定を行うことができます。

なお、**動画のときは、太字の項目のみ**設定できます。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定の項目が表示されます。

2 項目を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して、項目を選びます。
- ➡ 選んだ項目の名称と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◄〉〈►〉を押して設定します。
- クリエイティブフィルター、リサイズは、さらに〈SET〉を押して、設定を行います。詳しくは、クリエイティブフィルター（p.236）、リサイズ（p.239）の説明ページを参照してください。キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定が終了します。

画像回転を行うときは、[1：**縦位置画像回転表示**]を[**する** 凵]に設定してください。[1：**縦位置画像回転表示**]が[**する** 凵][**しない**]に設定されているときは、[**画像回転**]で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定の項目が表示されます。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.226)

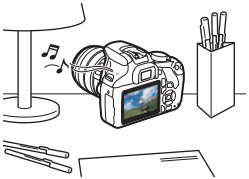
テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。また、HDMI端子を備えたテレビかどうか確認してください。

カメラとテレビをHDMIケーブルで接続すると、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

フルハイビジョン（Full HD：1920×1080）、またはハイビジョン（HD：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルで、ハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しむことができます。

- カメラに映像/音声出力端子はありません。そのため、AVケーブルでテレビと（アナログ）接続することはできません。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI入力端子を備えていないため、HDMIケーブルで、カメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。
- MOV形式の動画ファイルの再生に対応していない機器で、動画を再生することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.218～225)



カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

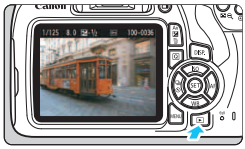
パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する

動画の再生／編集には、カメラで撮影した動画の記録形式に対応した、OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアをお使いください。

市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画のときは［SET］が表示されます。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈㊗〉を押して1枚表示にします。**

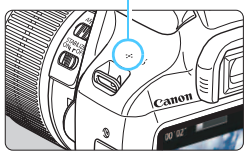
3 1枚表示の状態で〈㊗〉を押す

➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。

4 動画を再生する

- ［▶］（再生）を選び、〈㊗〉を押します。
- ➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈㊗〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈◯〉を回すと、再生中でも内蔵スピーカーの音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

スピーカー



動画再生パネル

項目	再生内容
⮌ 終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
✂ 編集	編集画面を表示します（p.220）。
♫ BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（p.225）。
▬▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
音量	〈(dial)〉を回すと、内蔵スピーカー（p.218）の音量を調整することができます。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

- フル充電のバッテリーパック LP-E10で連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約2時間20分です。
- 1枚表示のときに〈DISP.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.233）。
- カメラをテレビに接続して（p.226）動画を再生するときは、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈(dial)〉を回しても音量は変わりません）。

✂ 動画の前後部分をカットする

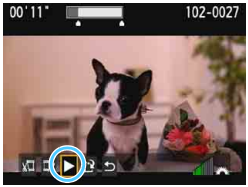
撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

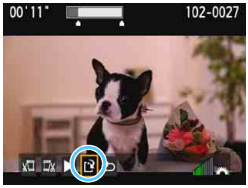
2 削除する範囲を指定する

- ［前］（前部を削除）か、［後］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。上部に白く表示された範囲が残ります。



3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、［↩］を選んで、〈SET〉を押し、確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。



4 保存する

- ［ ］を選んで〈SET〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び〈SET〉を押すと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 約1秒単位（画面上部の［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**スライドショー**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 再生する画像を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して図に示した項目を選び、〈(SET)〉を押します。

全画像/動画/静止画

- 〈▲〉〈▼〉を押して［**全画像**］［**動画**］［**静止画**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。

日付/フォルダ/レーティング

- 〈▲〉〈▼〉を押して［**日付**］［**フォルダ**］［**★ レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈**DISP.**〉が明るく表示された状態で、〈DISP.〉ボタンを押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して内容を選び、〈(SET)〉を押します。

［日付］

［フォルダ］

［レーティング］

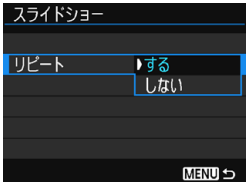
項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

3 ［設定］の内容を設定する

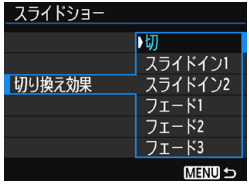
- 〈▲〉〈▼〉を押して［**設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）、［**切り換え効果**］（画像を切り換える際の演出効果）、［**BGM選択**］を設定します。
- BGM選択の設定方法は、225ページを参照してください。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

［再生間隔］

［リピート］



［切り換え効果］



［BGM選択］

4 スライドショーを開始する

- 〈▲〉〈▼〉を押して［**スタート**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈(SET)〉を押します。一時停止中は画像の左上に［❚❚］が表示されます。再度〈(SET)〉を押すと再開します。
- 自動再生中に〈DISP.〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます（p.83）。
- 動画再生中に〈 〉を回すと、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◀〉〈▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、226ページを参照してください。

BGMを選択する

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーすると、BGMを流しながらスライドショーを行うことができます。

1 ［BGM選択］を選ぶ

- ［**BGM 選択**］で［**する**］を選び、〈㊙〉を押します。
- カードに BGM が入っていないときは、手順2の操作はできません。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して音楽を選び、〈㊙〉を押します。音楽を複数選ぶこともできます。

3 試聴する

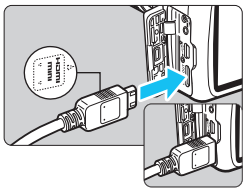
- 〈DISP.〉ボタンを押すと、試聴ができます。
- 〈▲〉〈▼〉を押すと、曲を切り換えられます。再度〈DISP.〉ボタンを押すと、停止します。
- 〈⌓〉を回すと、音量を調節することができます。
- 音楽を削除するときは、〈▲〉〈▼〉を押して音楽を選び、〈🗑〉ボタンを押します。

購入時にカメラにBGMは入っていません。BGMをカードにコピーする方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

テレビで見る

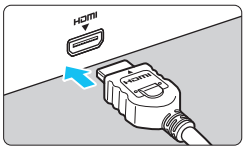
撮影した静止画や動画を、テレビで見ることができます。**テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。また、HDMI端子を備えたテレビかどうか確認してください。**

［**3：Wi-Fi/NFC**］が［**使う**］に設定されているときは、テレビとの接続ができません。［**Wi-Fi/NFC**］を［**使わない**］に設定してから、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続し直してください。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈▲**HDMI MINI**〉マークがカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

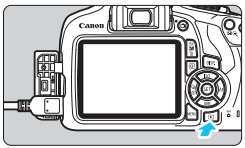


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

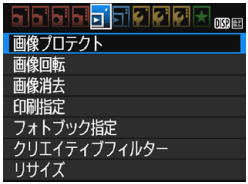
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、218 ページを参照してください。

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。

保護する（プロテクト）

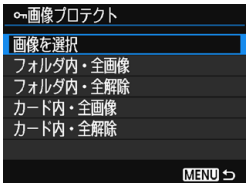
大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト



1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。



2 ［画像を選択］を選ぶ

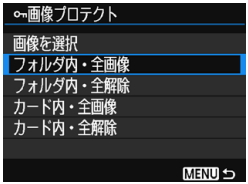
- ［**画像を選択**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

3 プロテクトをかける

- 〈◀〉〈▶〉を押してプロテクトをかける画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈🔑〉が表示されます。
- もう一度〈(SET)〉を押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ単位、またはカード単位で、画像にプロテクトをかけることもできます。



［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.52）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.231）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.228）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+◢Lで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

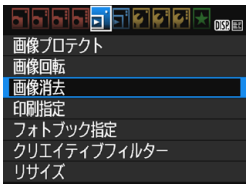
➡ 消去メニューが表示されます。

3 消去する

● ［**消去**］を選び〈㊗〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック［√］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 ［画像消去］を選ぶ

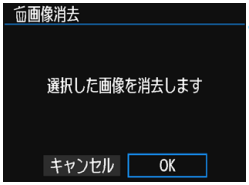
● ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈㊗〉を押します。

2 ［選択して消去］を選ぶ

- ［**選択して消去**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈⊞ Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して消去したい画像を選び、〈▲〉〈▼〉を押します。
- ➡ 画面の左上に［✓］が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



4 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ［**OK**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

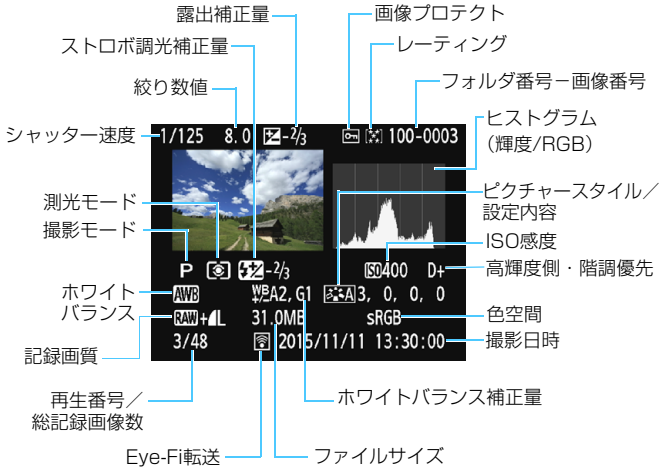
MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.52）。

DISP. 撮影情報の内容

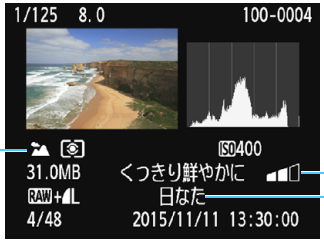
応用撮影ゾーンで撮影した静止画の例



* RAW＋L の設定で撮影した画像は、RAW のファイルサイズが表示されます。
* クリエイティブフィルターやリサイズ処理した画像のときは、〈RAW+〉の表示が〈RAW〉に変わります。
* ストロボ調光補正なしでストロボ撮影した画像は〈⚡〉、ストロボ調光補正を行った画像は〈⚡±〉と表示されます。

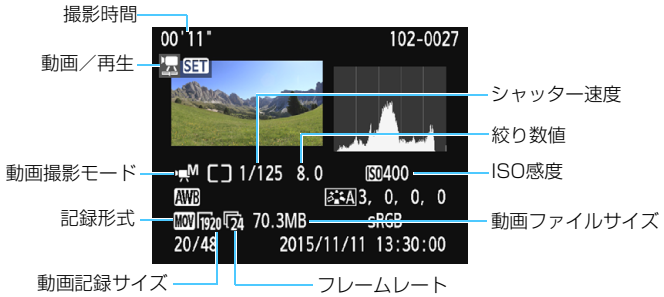
- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

かんたん撮影ゾーンで撮影した静止画の例



* かんたん撮影ゾーンで撮影した画像は、撮影モードによって表示される内容が異なります。

動画の例



* シャッター速度、絞り数値、ISO感度（任意設定時）は、マニュアル露出で撮影したときに表示されます。
* ビデオスナップ撮影を行った動画のときは、〈〉が表示されます。

● ハイライト警告表示について

撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

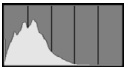
● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、[▶2：ヒストグラム]で行います。

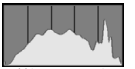
[輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

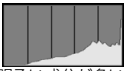
ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

[RGB] 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

9

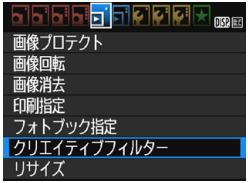
撮影した画像を加工する

撮影後、画像にフィルター効果を施したり、JPEG画像をリサイズ（画素数を少なく）することができます。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

画像にフィルター効果を付ける

撮影した画像に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。



1 ［クリエイティブフィルター］を選ぶ

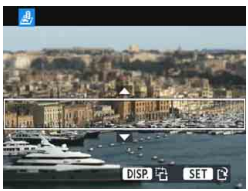
- ［▶1］タブの［**クリエイティブフィルター**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- フィルター処理を行う画像を選びます。
- 〈▪Q〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3 フィルター効果を選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと、フィルターの種類が表示されます（p.238）。
- 〈◀〉〈▶〉を押してフィルター効果を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された画像が表示されます。



4 フィルター効果を調整する

- 〈◀〉〈▶〉を押してフィルター効果を調整し、〈(SET)〉を押します。
- ジオラマ風は〈▲〉〈▼〉を押して、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させ、〈(SET)〉を押します。

5 保存する

- [OK] を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

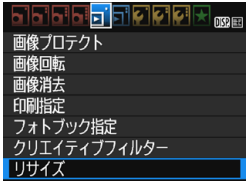
- RAW＋L または RAW で撮影した画像は、RAW 画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- アスペクト比を設定して撮影した RAW 画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ（p.202）は付加されません。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。
- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。
- **ジオラマ風**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。236ページの手順4で〈DISP.〉ボタンを押すと、白枠の縦／横を切り換えることができます。

JPEG画像をリサイズする

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**／**M**／**S1**／**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。**



1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**リサイズ**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- リサイズ処理を行う画像を選びます。
- 〈▪ 🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- 〈◀〉〈▶〉を押してリサイズする画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。

4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○
S3				

画像サイズについて

前ページの手順3で表示される［**M ****×****］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりとなります。

なお、「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。また、画像がわずかにトリミングされます。

記録画質	アスペクト比と記録画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
M	3456×2304 （800万）	3072×2304 （700万）	3456×1944 （670万）	2304×2304 （530万）
S1	2592×1728 （450万）	2304×1728 （400万）	2592×1456* （380万）	1728×1728 （300万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×400* （29万）	480×480 （23万）

10

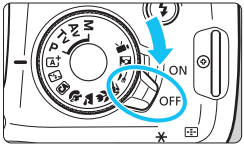
画像の印刷

- **印刷**（p.242）
  カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。
- **画像を印刷指定する／DPOF**（p.251）
  カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
- **フォトブックにする画像を指定する**（p.255）
  カードに記録されている画像の中から、フォトブックにする画像を指定することができます。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います。**

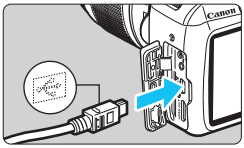
カメラとプリンターを接続する

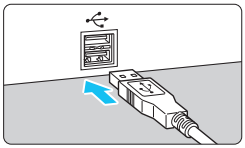


1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

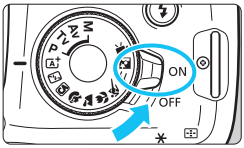




3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⇔〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる



5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈🔗〉が表示されます。

- プリンターにPictBridge用の接続端子があることをあらかじめ確認してください。
- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.250）。
- [**3 : Wi-Fi/NFC**]が[**使う**]に設定されているときは、プリンターとの接続ができません。[**Wi-Fi/NFC**]を[**使わない**]に設定してから、カメラとプリンターをインターフェースケーブルで接続し直してください。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約2時間40分印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にDCカプラー DR-E10（別売）とコンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

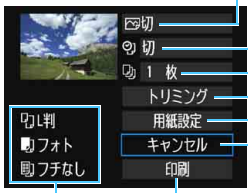
1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈🖌〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀〉〈▶〉を押して印刷する画像を選びます。

2 〈㊗〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面



- 印刷効果を設定します（p.246）
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します（p.249）
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します

設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

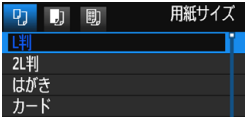
＊ プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈㊗〉を押します。

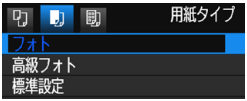
➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定



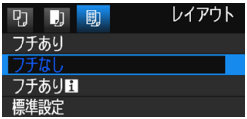
● プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈(SET)〉を押します。
➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定



● プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈(SET)〉を押します。
➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定



● 印刷レイアウトを選び〈(SET)〉を押します。
➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*1を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します*2。 ・［**20面配置**］では、撮影情報*1を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

*1：Exif情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。
*2：『画像を印刷指定する／DPOF』（p.251）で印刷指定を行ったあと、『印刷指定画像のダイレクトプリント』（p.254）で印刷することをおすすめします。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなるため、解像度が低い写真になることがあります。

4 印刷効果（イメージオプティマイズ）を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 印刷効果を選び〈(SET)〉を押します。
- 〈DISP.〉横の〈目〉が明るく表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.248）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。248ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

ISO感度「H」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈 〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈 〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。

- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.249）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［OK］を選びます。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.194）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

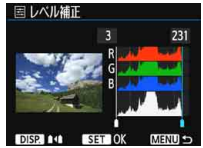
246ページの手順4で項目を選び、〈DISP.〉の横に〈印〉が明るく表示されているときに、〈DISP.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。



レベル補正画面で〈DISP.〉ボタンを押すと、〈▮〉の位置が切り換わります。〈◀〉〈▶〉を押すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

● ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
● ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈✥〉十字キーで行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
● ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈🔍〉〈▣🔍〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈✥〉十字キーを操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈DISP.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈⌒〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈⌒〉が青色に変わります。

3 〈(SET)〉を押してトリミングを終了する

- ➡ 印刷設定画面に戻ります。
- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈(SET)〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー
用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー
インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

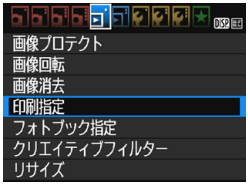
ハードウェアエラー
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー
選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

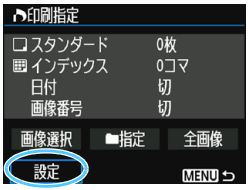
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 ［印刷指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



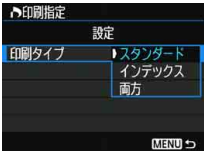
2 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

［印刷タイプ］



［日付］

［画像番号］

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

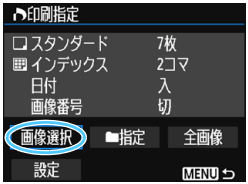
4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
  - ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。RAW画像は、PictBridge (p.242) で印刷することができます。
- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像を指定する

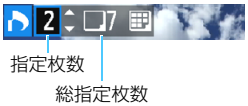
● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

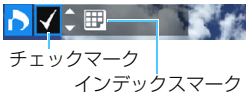
〈▪Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



[スタンダード] [両方]

〈▲〉〈▼〉を押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。



[インデックス]

〈▲〉〈▼〉を押して、〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● ▪指定

［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- ▪指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 242ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶1] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.244）

- 印刷効果（p.246）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

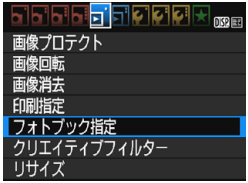
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  - 印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、250ページを参照してください。

フォトブックにする画像を指定する

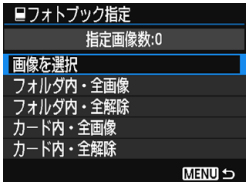
フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされ、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターで印刷をするときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 ［フォトブック指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**フォトブック指定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［画像を選択］を選ぶ

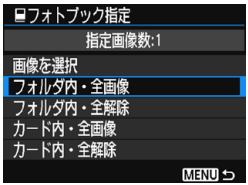
- ［**画像を選択**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3 指定する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して、指定する画像を選び〈▲〉〈▼〉を押します。
- 画像を複数選ぶときは、この操作を繰り返します。画面の左上に、指定した枚数が表示されます。
- もう一度〈▲〉〈▼〉を押すと、指定が解除されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて指定することもできます。



［▶1：**フォトブック指定**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

- RAW画像と動画は指定できません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

11

カメラの機能を自分好みに変更する

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能は、応用撮影ゾーンで設定・機能します。

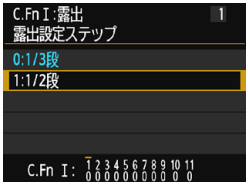
MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 [カスタム機能（C.Fn）] を選ぶ

- [3] タブの [カスタム機能 (C.Fn)] を選び、〈SET〉を押します。

2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



3 設定を変更する

- 〈▲〉〈▼〉を押して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

➡ 手順1の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

［3：設定解除］で［カスタム機能（C.Fn）一括解除］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます（p.194）。

カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

			LV撮影
1	露出設定ステップ	p.260	○
2	ISO感度拡張		○
3	Avモード時のストロボ同調速度	p.261	○

C.Fn II：画像

4	長秒時露光のノイズ低減	p.262	○
5	高感度撮影時のノイズ低減	p.263	○
6	高輝度側・階調優先		○

C.Fn III：AF・ドライブ

7	AF補助光の投光	p.264	○（AFQuick時*）

* LEDライト付きのEXスピードライト（別売）使用時は、AFロ、AFモードでもAF補助用のライトが点灯します。

C.Fn IV：操作・その他

8	シャッターボタン/AEロックボタン	p.265	○
9	SETボタンの機能	p.266	○（3を除く）
10	ストロボボタンの機能		○
11	電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯		

- 動画撮影時は、カスタム機能の設定はできません（設定していた内容も無効になります）。
- □ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時には機能しません。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

カスタム機能は、機能ごとに4つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：画像」、「C.Fn III：AF・ドライブ」、「C.Fn IV：操作・その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn-1　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

1設定時は、ファインダー内と液晶モニターの露出レベル表示が、図のようになります。

C.Fn-2　ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、「**H**」（ISO12800 相当）が選択できるようになります。なお、［**C.Fn-6：高輝度側・階調優先**］を［**1：する**］に設定したときは、「**H**」は選択できません。

C.Fn-3　Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE〈**Av**〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

0：自動

明るさに応じてシャッター速度が1/200秒～30秒の範囲で自動設定されます。外部ストロボ使用時は、ハイスピードシンクロを行うこともできます。

1：1/200-1/60秒自動

暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により適正露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

2：1/200秒固定

シャッター速度が1/200秒に固定されるため、[**1：1/200-1/60秒自動**]よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[**1：1/200-1/60秒自動**]よりも被写体の背景が暗くなります。

1, 2設定時は、外部ストロボ使用時に、ハイスピードシンクロはできません。

C.Fn II：画像

C.Fn-4　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

2：する

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**1：自動**］で検出できないノイズがあったときに［**2：する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 1，2設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600以上の高感度で撮影すると、0，1設定時よりも2設定時の方が画像のザラつきが多くなる場合があります。
- 1，2設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

C.Fn-5　高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0：標準　　**2：強め**

1：弱め　　**3：しない**

- 2設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。また、連続撮影速度が遅くなることがあります。
- RAW と RAW+L 画像をカメラで再生、またはダイレクトプリントすると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.314）で行ってください。
- RAW画像をスマートフォンに送信すると、スマートフォンに保存される画像は、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。そのため、RAW画像を撮影する場合は、記録画質をRAW+Lに設定して撮影することをおすすめします。

C.Fn-6　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

- 1設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.123）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 1設定時は、0設定時よりもノイズ（画像のザラツキ感、縞など）が若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。
また、液晶モニターとファインダー内には、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn-7　AF補助光の投光

内蔵ストロボ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じてAF補助光が投光されます。

1：しない

AF補助光は投光されません。「AF補助光が他の人の迷惑になるとき」などに設定します。

2：外部ストロボの補助光のみ投光

外部ストロボ使用時のみ、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

3：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、赤外光方式のAF補助光だけを投光します。内蔵ストロボと同じ、ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光したくないときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、0, 2, 3に設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn-8　シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないように、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。AIサーボAF時は、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

ライブビュー撮影時

- 1, 3設定時は、〈✱〉ボタンでワンショットAFが行われます。
- 0, 2設定時は、シャッターボタン半押しでワンショットAFが行われます。

C.Fn-9　SETボタンの機能

よく使う機能を、〈(SET)〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈(SET)〉を押すと、割り当てた機能の設定画面が表示されます。

0：通常（無効）

1：記録画質選択

記録画質の設定画面が表示されます。記録画質を選び、〈(SET)〉を押します。

2：調光補正

調光補正の設定画面が表示されます。補正量を設定し〈(SET)〉を押します。

3：液晶モニターの入/切

液晶モニターを、点灯／消灯することができます。

4：絞り込み

設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う範囲（被写界深度）を、ファインダー、またはライブビュー映像で確認することができます。

C.Fn-10　ストロボボタンの機能

0：ストロボアップ

1：ISO感度

ISO感度の設定画面が表示されます。〈◄〉〈►〉または〈☁〉で感度を設定します。ファインダーを見ながら設定することもできます。

C.Fn-11　電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯

0：点灯

電源を入れると撮影機能の設定状態（p.54）が表示されます。

1：電源〈OFF〉時の状態を保持

〈DISP.〉ボタンを押して、液晶モニターが消えている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに撮影機能の設定状態が表示されません。電池の消耗を少なくしたいときに有効です。なお、メニュー操作や再生操作は、通常どおり行うことができます。

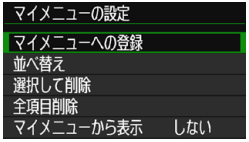
〈DISP.〉ボタンを押して、撮影機能の設定状態が表示されている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに撮影機能の設定状態が表示されます。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。

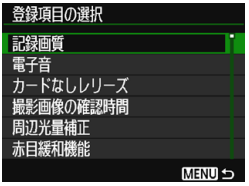
1 ［マイメニューの設定］を選ぶ

- ［★］タブの［**マイメニューの設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［マイメニューへの登録］を選ぶ

- ［**マイメニューへの登録**］を選び〈(SET)〉を押します。



3 登録する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈(SET)〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。［**並べ替え**］を選び、並び順を変える項目を選んで〈(SET)〉を押します。［⇕］が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈(SET)〉を押します。

- **選択して削除／全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。［**選択して削除**］を選ぶと1項目ずつ削除、［**全項目削除**］を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

  ［**する**］に設定すると、メニュー画面を表示したときに［★］タブから表示されます。

MEMO

12

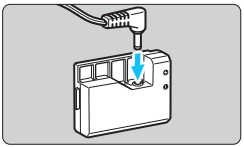
資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

認証マークについて
［3］タブの［**認証マーク表示**］を選び〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

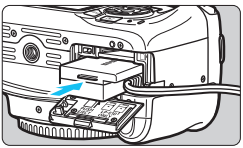
家庭用電源を使う

DCカプラー DR-E10（別売）とコンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。



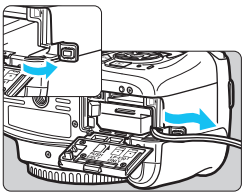
1 DCカプラーを接続する

- DC カプラーにコードのプラグを差し込みます。



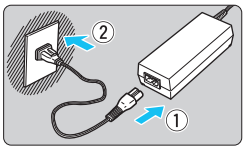
2 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。



3 DCコードを通す

- DC コード通し部のカバーを開き、図のようにコードを通します。
- ふたを閉じます。



4 電源コードを接続する

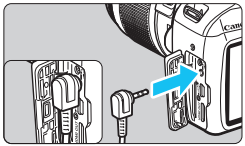
- 電源コードを図のように差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源スイッチを〈**ON**〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

ACアダプターキット ACK-E10を使用することもできます。

リモートスイッチを使う

コード長約60cmのリモートスイッチ RS-60E3（別売）に対応しています。カメラのリモコン端子につないで、シャッターボタンと同じように半押し／全押しを行うことができます。

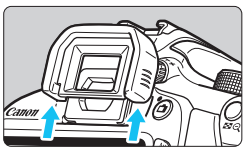


リモートコントローラー RC-6、RC-1、RC-5（別売）は使用できません。

アイピースカバーを併用する

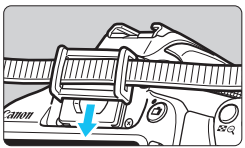
セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真（露出不足）になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.33）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。



2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップをファインダー接眼部の溝に沿って取り付けます。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXスピードライト（別売）をこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。このカメラは、Aタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

- ストロボ機能設定（p.199）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**外部ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II調光方式**］の項目のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- 外部ストロボ側で調光補正を設定すると、カメラの液晶モニターに表示されるストロボ調光補正のマークが、±2から±■に変わります。
- 外部ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしている場合は、常時フル発光します。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で同調します。1/200秒よりも遅いシャッター速度で撮影してください。

なお、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常に機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

---

1 **Eye-Fiカードを入れる**（p.36）

2 **［Eye-Fi設定］を選ぶ**

- ［1］タブの［**Eye-Fi設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 **通信機能を有効にする**

- ［**Eye-Fi通信**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**しない**］を選ぶと、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク）。

4 **通信情報一覧を表示する**

- ［**通信情報一覧**］を選び〈SET〉を押します。

5 [接続先のSSID:] を確認する

- [**接続先のSSID:**] に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈MENU〉ボタンを3回押してメニューを終了します。

通信状態マーク

6 撮影する

➡ 画像が転送され、〈 〉が灰色（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。

- 転送した画像は、撮影情報表示（p.232）の画面で が表示されます。

（灰色）**未接続** ：転送先に接続していません。
（点滅）**接続中** ：転送先に接続しています。
（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
（↑）**転送中** ：画像を転送しています。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- [**3：Wi-Fi/NFC**] が [**使う**] に設定されているときは、Eye-Fiカードでの画像転送はできません。
- 「 」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- [**1：Eye-Fi通信**] を [**しない**] に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。
- Eye-Fiカード以外の無線LANカードを入れたときは、[**1：Eye-Fi設定**] は表示されません。また、通信状態マーク〈 〉も表示されません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン									応用撮影ゾーン				
		A+		CA							P	Tv	Av	M	
全記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定										○	○	○	○	○*1
	オートの上限値設定										○	○	○	○	
ピクチャースタイル	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	任意設定										○	○	○	○	○
雰囲気を選んで撮影				○	○	○	○	○	○	○					
明かりや状況にあわせて撮影					○	○	○	○							
背景をぼかす/くっきりさせる				○											
色あい									○						
ホワイトバランス	自動設定	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB W	AWB	○	○	○	○	○
	プリセット										○	○	○	○	○
	マニュアル										○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング										○	○	○	○	
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減											○	○	○	○	
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	
高輝度側・階調優先											○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	
	Adobe RGB										○	○	○	○	
AF動作（ファインダー撮影）	ワンショットAF				●	●	●		●	●	○	○	○	○	
	AIサーボAF							●			○	○	○	○	
	AIフォーカスAF	●	●	●							○	○	○	○	
AF動作（ライブビュー撮影）	ワンショットAF	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
AF方式（ライブビュー撮影）	AF □	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	AF Quick	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*2

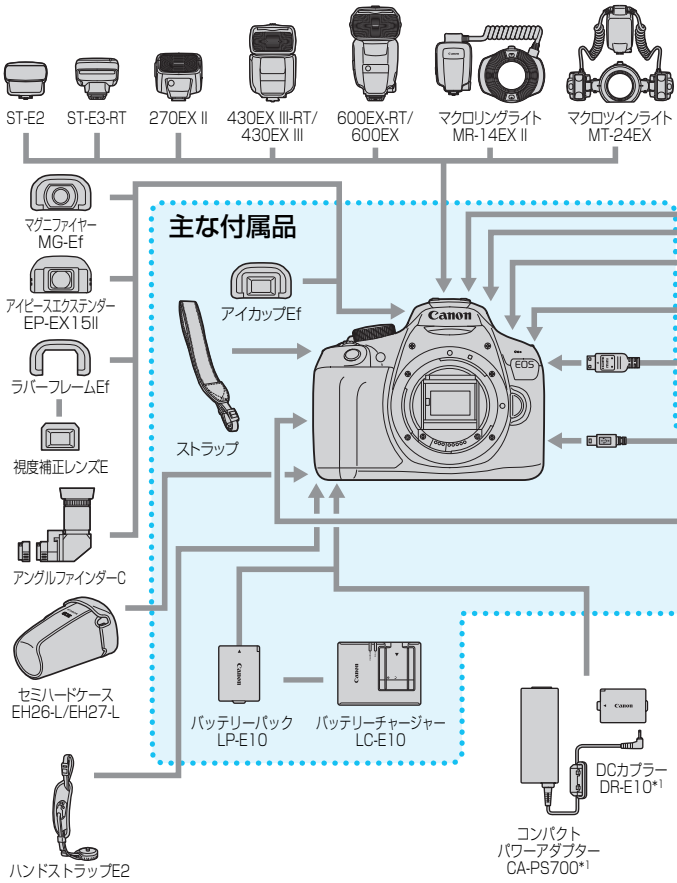
*1：マニュアル露出時のみ設定できます。

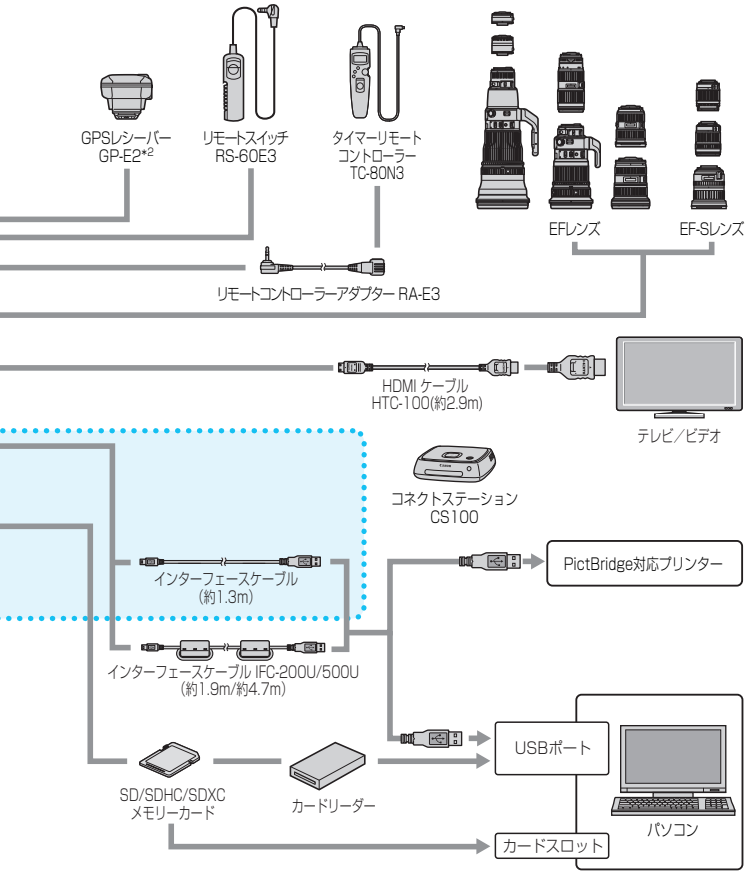
*2：動画撮影中は〈AF □〉に切り換わります。

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン									応用撮影ゾーン				
											P	Tv	Av	M	
AF	AFフレーム選択										○	○	○	○	AF Quick
	AF補助光	●		●	●	*3	●	*4	●	●	○	○	○	○	
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	
	測光モード選択										○	○	○	○	
露出	プログラムシフト										○				
	露出補正										○	○	○		○*6
	AEB										○	○	○	○	
	AEロック										○	○	○		○*6
	被写界深度確認										○ (C.Fn-9-4)				
ドライブ/セルフタイマー	1枚撮影	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	
	連続撮影			○	○			○			○	○	○	○	
	（10秒）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2（2秒）										○	○	○	○	
	C（連続撮影）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
内蔵ストロボ	自動発光	●		○	●		●			●					
	常時発光			○					○		○	○	○	○	
	発光禁止		●	○		●		●	○		○	○	○	○	●
	赤目緩和	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	
	FEロック										○	○	○	○	
	ストロボ調光補正										○	○	○	○	
外部ストロボ	機能設定										○	○	○	○	
	カスタム機能設定										○	○	○	○	
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
アスペクト比*5											○	○	○	○	
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
機能ガイド		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*3：外部ストロボ使用時は、必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。
*4：ライブビュー撮影時に、AF方式が〈AF Quick〉のときは、必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。
*5：ライブビュー撮影時のみ設定できます。
*6：自動露出時のみ設定できます。

システム図


ST-E2
ST-E3-RT
270EX II
430EX III-RT/
430EX III
600EX-RT/
600EX
マクロリングライト
MR-14EX II
マクロツインライト
MT-24EX
マグニファイヤー
MG-Ef
主な付属品
アイピースエクステンダー
EP-EX15II
アイカップEf
ラバーフレームEf
ストラップ
視度補正レンズE
アングルファインダーC
セミハードケース
EH26-L/EH27-L
バッテリーパック
LP-E10
バッテリーチャージャー
LC-E10
DCカプラー
DR-E10*1
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS700*1
ハンドストラップE2



*1: ACアダプターキット ACK-E10を使用することもできます。

*2: GP-E2に付属しているケーブルを使用して接続

MENU メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3／RAW＋L／RAW	88
電子音	入／切	184
カードなしレリーズ	する／しない	184
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	184
周辺光量補正	する／しない	124
赤目緩和機能	切／入	106
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	198

撮影2（赤）

露出補正／AEB設定	1/3, 1/2段ステップ、±5段（AEB±2段）	118
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	123
測光モード	評価測光／部分測光／中央部重点平均測光	115
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	133
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 BKT設定：ホワイトバランスブラケティング	135 136
色空間	sRGB／Adobe RGB	137
ピクチャースタイル	オート／スタンダード／ポートレート／風景／ニュートラル／忠実設定／モノクロ／ユーザー設定1～3	95 126 129

の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

撮影3（赤）

		参照頁
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理を行うためのデータを取得	202
ISOオート	上限400／上限800／上限1600／上限3200／上限6400	94

撮影4*（赤）

ライブビュー撮影	する／しない	141
AF方式	ライブ1点AF／ライブAF／クイックAF	148
グリッド	表示しない／グリッド1＃／グリッド2###	145
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	146
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	147

* かんたん撮影ゾーンでは、［撮2］タブに表示されます。

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	228
画像回転	画像の縦横回転	211
画像消去	画像の消去	230
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	251
フォトブック指定	フォトブックにする画像を指定	255
クリエイティブフィルター	ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／トイカメラ風／ジオラマ風	236
リサイズ	JPEG画像の画素数を少なく処理	239

▶: 再生2（青）

		参照頁
ヒストグラム	輝度／RGB	234
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	209
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート／切り換え効果／BGM選択	222
レーティング	[OFF] ／[•]／[••]／[•••]／[••••]／[•••••]	212

機能設定1（黄）

オートパワーオフ	30秒／1分／2分／4分／8分／15分／しない	185
縦位置画像回転表示	する／する／しない	192
カード初期化	記録内容を初期化して消去	52
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	188
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	186
撮影機能画面の色	撮影機能の設定状態の画面の色を選択	197
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	274

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	明るさを調整（7段階）	185
液晶の消灯/点灯	半押し連動／半押し/DISP./消灯しない	197
日付/時刻/エリア	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア	41
言語	表示言語を選択	43
手作業でクリーニング	手作業による撮像素子の清掃	204
機能ガイド	表示する／表示しない	55
GPS機器の設定	GPSレシーバー GP-E2（別売）装着時に設定可	283

機能設定3（黄）

		参照頁
Wi-Fi/NFC	使わない／使う	—*
	NFCでの接続を許可	
Wi-Fi機能	スマートフォンと通信／Webサービスへ画像を送信	
認証マーク表示	このカメラが対応している認証マークの一部を確認	269
カスタム機能（C.Fn）	カメラの機能を細かく設定する	258
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	190
設定解除	カメラ設定初期化／カスタム機能（C.Fn）一括解除	194
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	—

* 詳しくは、無線機能 使用説明書を参照してください。

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	267

- Wi-Fi機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- カメラとパソコン、プリンター、GPSレシーバー、テレビなどを、ケーブルで接続しているときは、［**Wi-Fi/NFC**］の設定ができません。また、［**Wi-Fi/NFC**］が［**使う**］に設定されているときは、これらとのケーブル接続はできません。

GPSレシーバー GP-E2（別売）を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- 本機でGP-E2を使用するときは、GP-E2に付属している接続ケーブルで、本機とGP-E2を接続してください。接続ケーブルを使用しないと、撮影時に位置情報が画像に付加されません。
- 本機ではお使いになれない機能があります。下記の点にご注意ください。
  - 撮影方向は記録されません（電子コンパスは使えません）。
  - 動画撮影を開始したときの位置情報を付加できますが、その位置情報は、EOS用ソフトウェアのMap Utilityでは表示できません。本機でご確認ください。

動画撮影モード時

動画1（赤）

		参照頁
動画撮影モード	自動露出／マニュアル露出	176
AF方式	ライブ1点AF／ライブAF／クイックAF	176
動画記録中のシャッターボタンAF	しない／する	176
シャッターボタン/AEロックボタン	AF/AEロック／AEロック/AF／AF/AFロック（AEロックなし）／AE/AF（AEロックなし）	177
高輝度側・階調優先	しない／する	177

動画2（赤）

動画記録サイズ	1920×1080（30／25／24）／1280×720（60／50）／640×480（30／25）	168
録音	録音：オート／マニュアル／しない	178
	録音レベル	
	ウィンドカット：切／入	
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	179
グリッド	表示しない／グリッド1 ＃／グリッド2 ###	179
ビデオスナップ	撮影しない／2秒間撮影／4秒間撮影／8秒間撮影	170
ビデオ方式	NTSC／PAL	179

動画3（赤）

		参照頁
露出補正	1/3段ステップ、±3段	180
オートライティング オプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	180
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	180
ピクチャースタイル	オート／スタンダード／ ポートレート／風景／ ニュートラル／忠実設定／ モノクロ／ユーザー設定1～3	180

動画撮影モード時のメニュー画面について

- [動画1]、[動画2]、[動画3]の画面（タブ）は、動画撮影モード時のみ表示されます。
- [撮影2]、[撮影3]、[撮影4]、[★]の画面（タブ）は表示されません。
- 以下のメニュー項目は表示されません。
  - [撮影1]：赤目緩和機能、ストロボ制御
  - [設定1]：撮影機能画面の色
  - [設定2]：液晶の消灯/点灯、手作業でクリーニング
  - [設定3]：認証マーク表示、カスタム機能（C.Fn）、著作権情報、設定解除、ファームウェア

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E10を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- 充電器に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。そのときは、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し/取り付けを行い、しばらく経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.36）。
- カード/電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.36）。
- 電池を充電してください（p.34）。
- 〈DISP.〉ボタンを押してください（p.54）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.34）。
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - ・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - ・Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**1：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.185）。
- ［**1：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。〈**DISP.**〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Mレンズは装着できません（p.44）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.36）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.36）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.36、230）。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.47、101）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、38ページ、または298ページを参照してください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.44）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.46～47）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.108）、ISO感度を上げる（p.92）、ストロボを使用する（p.104）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（p.97）。

画像に横縞が写る／露出や色あいがおかしい

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、ファインダー撮影、ライブビュー撮影を行うと、横縞（ノイズ）や露出ムラが発生することがあります。また、露出（明るさ）や色あいが適切にならないことがあります。なお、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

標準露出にならない／露出ムラが出る

- ファインダー撮影時またはライブビュー撮影時に、TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

連続撮影速度が遅い

- レンズの種類やシャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- [**3：カスタム機能（C.Fn）**]［**5：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**0：標準**］［**1：弱め**］［**3：しない**］のいずれかに設定してください。［**2：強め**］に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が大幅に少なくなります（p.263）。
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります（p.136）。
- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、89ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

- ［**3：カスタム機能（C.Fn）**］の［**6：高輝度側・階調優先**］が［**1：する**］に設定されているときは、ISO100に設定できません。［**0：しない**］に設定すると、ISO100が設定できるようになります（p.263）。動画撮影時も同様です（p.177）。

ISO感度［H］（12800相当）が設定できない

- ［**3：カスタム機能（C.Fn）**］の［**6：高輝度側・階調優先**］が［**1：する**］に設定されているときは、［**2：ISO感度拡張**］を［**1：する**］に設定しても、ISO感度［**H**］（12800相当）は選択できません。［**6：高輝度側・階調優先**］を［**0：しない**］に設定すると、ISO感度［**H**］が設定できるようになります（p.263）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- ［**3：カスタム機能（C.Fn）**］の［**6：高輝度側・階調優先**］が［**1：する**］に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。［**0：しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（p.263）。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください。［**標準/弱め/強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（p.123）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［**3：カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：Avモード時のストロボ同調速度**］を、［**1：1/200-1/60秒自動**］または［**2：1/200秒固定**］に設定してください（p.261）。

内蔵ストロボが勝手に上がる

- 〈ϟᴬ〉（内蔵ストロボ自動発光）が、初期設定されている撮影モードでは、必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります（〈A⁺〉〈CA〉〈🏃〉〈🌷〉〈🌄〉）。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.273）。
- [📷1：ストロボ制御]の[外部ストロボカスタム機能設定]の[調光方式]が[TTL（自動調光）]に設定されていると、常時フル発光します（p.201）。

外部ストロボの調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- [ϟ3：カスタム機能（C.Fn）]の[3：Avモード時のストロボ同調速度]を[0：自動]に設定してください（p.261）。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.141）。

ライブビュー撮影時に、白い🌡と赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🌡〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています（p.157）。

動画撮影時に赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.181）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。SDスピードクラス6「CLASS 6」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 1カットのファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- [📹1：**動画撮影モード**]が[**自動露出**]に設定されていると、ISO感度は自動設定されます。[**マニュアル露出**]に設定すると、ISO感度を任意に設定することができます（p.162）。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、マニュアル露出のときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

無線機能関連

Wi-Fiの設定ができない

- カメラとパソコン、プリンター、GPSレシーバー、テレビなどを、ケーブルで接続しているときは、Wi-Fiの設定ができません（[**3**: Wi-Fi/NFC]が灰色で表示）。ケーブルを取り外してから、設定を行ってください。
- 無線機能 使用説明書を参照してください。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンと動画撮影モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.50）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.137）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです（p.189）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.188）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.41）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.41）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.247）。

[###]が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます（p.213）。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定] が表示されない

- ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.274）。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ハイライト警告表示です（p.234）。露出オーバーで白飛びした部分が点滅します。

画像を消去できない

- プロテクトがかかっている画像は消去できません（p.228）。

動画が再生できない

- パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください（p.162）。

カメラをテレビに接続できない

- テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。HDMIケーブル HTC-100の使用をおすすめします（p.226）。
- テレビにHDMI入力端子があるか確認してください。HDMI入力端子を備えていない、映像/音声入力端子のみを備えたテレビには接続できません。

テレビに画像が表示されない

- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.226）。
- ［**3：Wi-Fi/NFC**］が［**使う**］に設定されているときは、テレビとの接続ができません。［**Wi-Fi/NFC**］を［**使わない**］に設定してから、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続し直してください。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください（p.314）。

画像をリサイズできない

- JPEGの**S3**とRAW画像は、カメラでリサイズ処理を行うことはできません（p.239）。

印刷関連

カメラをプリンターに接続できない

- ［Wi-Fi/NFC］が［使う］に設定されているときは、プリンターとの接続ができません。［Wi-Fi/NFC］を［使わない］に設定してから、カメラとプリンターをインターフェースケーブルで接続し直してください。

印刷効果の項目が説明書より少ない

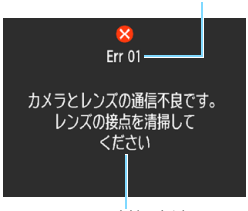
- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.246）。

パソコン接続関連

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用のソフトウェアをパソコンにインストールしてください（p.315）。
- ［Wi-Fi/NFC］が［使う］に設定されているときは、パソコンとの接続ができません。［Wi-Fi/NFC］を［使わない］に設定してから、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し直してください。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	→ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.25、26）
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	→ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.36、52）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	→ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.36、52、230）
05	内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源スイッチを入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作（p.39）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.36、39）

***上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、EOS・サポートナビ（canon.jp/eos-navi）から修理をお申し込みいただくか、エラー番号を控えて別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。**

主な仕様

■型式

型式.....ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体.....SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード
撮像画面サイズ.....約22.3×14.9mm
使用レンズ.....キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
* EF-Mレンズを除く
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント.....キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.....CMOSセンサー
カメラ部有効画素.....約1800万画素
アスペクト比.....3：2
ダスト除去機能.....ダストデリートデータ付加/手作業でクリーニング

■記録形式

記録フォーマット.....DCF2.0
画像タイプ.....JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEGラージ同時記録可能
記録画素数.....L（ラージ）　：約1790万（5184×3456）画素
M（ミドル）　：約800万（3456×2304）画素
S1（スモール1）：約450万（2592×1728）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）　：約1790万（5184×3456）画素
フォルダ作成／選択.....可能
画像番号.....通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル.....オート、スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
表現セレクト機能.....雰囲気を選んで撮影、明かりや状況にあわせて撮影
ホワイトバランス.....オート（雰囲気優先）、オート（ホワイト優先）、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応

ノイズ低減 ..... 長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正..... オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先..... 可能
レンズ周辺光量補正..... 可能

■ファインダー

方式..... ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率..... 上下/左右とも約95%（アイポイント約21mm時）
倍率..... 約0.8倍（50mmレンズ・∞・−1m^{-1}）
アイポイント ..... 約21mm（−1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 ..... 約−2.5〜+0.5m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン... 固定式、プレシジョンマット
ミラー..... クイックリターン式
被写界深度確認 ..... カスタム機能の設定により可能

■オートフォーカス（ファインダー撮影時）

方式..... TTL二次結像位相差検出方式
測距点..... 9 点（中央F5.6 対応・クロス測距）
測距輝度範囲 ..... EV0 〜 18（中央測距点）
EV1 〜 18（その他の測距点）
（ワンショットAF・常温・ISO100）
AF動作..... ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF
AF補助光 ..... 内蔵ストロボ間欠発光方式

■露出制御

測光方式..... 63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約10%）
・中央部重点平均測光
測光輝度範囲 ..... EV1〜20（常温・ISO100）
撮影モード..... かんたん撮影ゾーン：
シーンインテリジェントオート、ストロボ発光禁止、クリエイティブオート、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、料理、夜景ポートレート

応用撮影ゾーン：
プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出

ISO感度 ..... かんたん撮影ゾーン*：ISO100～3200自動設定
（推奨露光指数） *ポートレート：ISO100
応用撮影ゾーン：ISO100～6400任意設定（1段ステップ）、ISO100～6400自動設定、ISOオート時の上限値設定可能、および「H」（ISO12800相当）の感度拡張が可能
露出補正 ..... 手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±2段（手動露出補正との併用可能）
AEロック ..... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる

■シャッター

形式 ..... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 ..... 1/4000～30秒（すべての撮影モードを合わせて）、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/200秒

■ストロボ

内蔵ストロボ ..... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー約9.2（ISO100・m）／約13（ISO200・m）
焦点距離約17mm相当の画角に対応
充電時間約2秒
外部ストロボ ..... EXシリーズスピードライトに対応
調光方式 ..... E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック ..... 可能
シンクロ端子 ..... なし

■ドライブ関係

ドライブモード ..... 1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー 10秒/2秒/10秒後連続撮影
連続撮影速度 ..... 最高約3.0コマ／秒
連続撮影可能枚数（約） ..... JPEGラージ/ファイン：1110枚
RAW：6枚
RAW+JPEGラージ/ファイン：5枚
* 当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定

■ライブビュー撮影機能

アスペクト比 ..... 3：2、4：3、16：9、1：1
フォーカス方式 ..... コントラスト検出方式（ライブ1点AF、顔優先ライブAF）、
位相差検出方式（クイックAF）
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
測距輝度範囲 ..... EV 1～18（常温・ISO100）
測光方式 ..... 撮像素子によるリアルタイム測光
測光輝度範囲 ..... EV 0～20（常温・ISO100）
グリッド表示 2種類

■動画撮影機能

記録形式 ..... MOV
映像 MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声 ..... リニアPCM
記録サイズと
フレームレート ..... 1920×1080（Full HD）：30p/25p/24p
1280×720（HD）：60p/50p
640×480（SD）：30p/25p
* 30p：29.97fps、25p：25.00fps、24p：23.98fps、
60p：59.94fps、50p：50.00fps
ビットレート ..... 1920×1080（30p/25p/24p）：約46Mbps
1280×720（60p/50p）：約46Mbps
640×480（30p/25p）：約11Mbps
フォーカス方式 ..... ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測距輝度範囲 ..... EV1～18（常温・ISO100）
測光方式 ..... 撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* フォーカス方式により自動設定
測光輝度範囲 ..... EV 0～20（常温・ISO100）
露出制御 ..... 自動露出、マニュアル露出
露出補正 ..... 1/3段ステップ±3段
ISO感度 ..... 自動露出撮影時：ISO100～6400自動設定
（推奨露光指数）　マニュアル露出時：ISO100～6400自動/任意設定
ビデオスナップ 2秒間/4秒間/8秒間から設定可能
録音 ..... 内蔵モノラルマイク
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能搭載
グリッド表示 2種類
静止画撮影 ..... 動画撮影時不可

■液晶モニター

形式……TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数……3.0型（4：3）/約92万ドット
明るさ調整……手動（7段階）
メニュー表示言語……日本語、英語
機能ガイド……表示可能

■再生機能

画像表示形式……簡易情報、簡易情報＋画質/番号、撮影情報、ヒストグラム、インデックス表示（4/9枚）
拡大ズーム倍率……約1.5～10倍
ハイライト警告……ハイライト部分点滅表示
画像送り……1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像回転……可能
レーティング……可能
動画再生……可能（液晶モニター、HDMI）
スピーカー内蔵
画像プロテクト……可能
スライドショー……全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
切り換え効果を5種類選択可能
BGM選択……スライドショー、動画再生時に選択可能

■撮影後の画像処理

クリエイティブフィルター……ラフモノクロ、ソフトフォーカス、魚眼風、トイカメラ風、ジオラマ風
リサイズ……可能

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター……PictBridge対応プリンター
印刷対応画像……JPEG画像、RAW画像
印刷指定……DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能……11種
マイメニュー登録……可能
著作権情報……設定/付加可能

■インターフェース

デジタル端子 ..... Hi-Speed USB相当：パソコン通信、ダイレクトプリント、GPSレシーバー GP-E2、コネクトステーション CS100接続
HDMIミニ出力端子..... タイプC（解像度自動切り換え）
リモコン端子 リモートスイッチRS-60E3用
Eye-Fiカード..... 対応

■電源

使用電池..... バッテリーパック LP-E10、1個
*家庭用電源アクセサリー使用によりAC駆動可能
撮影可能枚数の目安..... ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による。 常温（+23℃）約500枚/低温（0℃）約410枚
ストロボ50%使用時） ライブビュー撮影：
常温（+23℃）約180枚/低温（0℃）約170枚
動画撮影可能時間 ..... 常温（+23℃）約1時間15分
低温（0℃）約1時間10分
（フル充電のバッテリーパック LP-E10使用時）

■大きさ・質量

大きさ..... 約129.0（幅）×101.3（高さ）×77.6（奥行）mm
質量..... 約485g（CIPAガイドラインによる）/
約440g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度 ..... 0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下

■バッテリーパック LP-E10

形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC7.4V
容量	860mAh
使用可能温度	充電時：＋6℃～＋40℃ 撮影時：0℃～＋40℃
使用可能湿度	85%以下
大きさ	約36.2（幅）×14.7（高さ）×49.0（奥行）mm
質量	約45g

■バッテリーチャージャー LC-E10

充電可能電池	バッテリーパック LP-E10
充電時間	約2時間（常温時）
定格入力	AC100～240V（50/60Hz）
定格出力	DC8.3V/580mA
使用可能温度	＋6℃～＋40℃
使用可能湿度	85%以下
大きさ	約67.0（幅）×30.5（高さ）×87.5（奥行）mm
質量	約85g

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

13

ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む

この章では、次の項目について説明しています。

- EOS DIGITAL用に用意された各ソフトウェアの概要
- ソフトウェアのダウンロード/インストール方法
- ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロード方法と見かた
- パソコンに画像を取り込む方法

ソフトウェアスタートガイド

ソフトウェアの概要

EOS DIGITAL用各種ソフトウェアの概要を説明します。なお、ソフトウェアのダウンロード/インストールは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロード/インストールはできません。

EOS Utility（イオス ユーティリティー）

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

Digital Photo Professional（デジタル フォト プロフェッショナル）

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

Picture Style Editor（ピクチャー スタイル エディター）

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアのダウンロード/インストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合も、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

canon.jp/download

- ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。

Windows　：表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

Macintosh：dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmgファイルをダブルクリックする
➡ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

(2) インストーラーファイルをダブルクリックする
➡ インストーラーが起動します。

2 [おまかせインストール] をクリックし、画面の指示に従って操作する

- Macintoshでは、[**インストール**] をクリックしてください。

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロードは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロードはできません。

1 ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

2 ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）を見る

- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

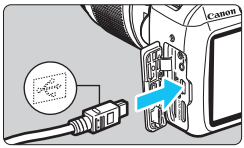
パソコンに画像を取り込む

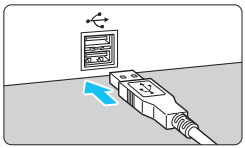
EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする

（p.315）





2 付属のインターフェースケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⇔〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

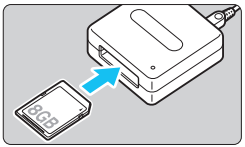
［**3：Wi-Fi/NFC**］が［**使う**］に設定されているときは、パソコンとの接続ができません。［**Wi-Fi/NFC**］を［**使わない**］に設定してから、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し直してください。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする

(p.315)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

索　引

英数字

10秒後/2秒後撮影.....103
1280×720（動画）.....168
1920×1080（動画）.....168
1点AF.....99
1枚撮影.....66, 277
1枚表示.....83
640×480（動画）.....168
9点自動選択AF.....99
A+（シーンインテリジェントオート）.....58
Adobe RGB.....137
AEB.....118, 260
AEロック.....120
AF　→ピント合わせ
AI FOCUS（AIフォーカスAF）.....98
AI SERVO（AIサーボAF）.....98
Av（絞り優先AE）.....110
B/W（モノクロ撮影）.....96, 128
BGM.....225
BULB（バルブ撮影）.....114
CA（クリエイティブオート）.....64
DCカプラー.....270
DPOF.....251
Eye-Fiカード.....274
FEB.....199
FEロック.....121
HDMI.....216, 226
ICCプロファイル.....137
ISO感度.....92
　感度拡張.....260
　自動設定（オート）.....93
　自動設定時の上限値設定.....94
JPEG（ジェイペグ）.....89
M（マニュアル露出）.....113
MENU マーク.....8
MF（手動ピント合わせ）.....101, 156
MWB.....133
NTSC.....168, 284
ONE SHOT（ワンショットAF）.....97
P（プログラムAE）.....86
PAL.....168, 284
PictBridge.....241
Q（クイック設定）.....48, 74, 144, 167, 214
RAW+JPEG.....28, 89, 91
RAW（ロウ）.....28, 89, 91
SD、SDHC、SDXCカード　→カード
sRGB.....137
Tv（シャッター優先AE）.....108
USB（デジタル）端子.....242, 317
WB（ホワイトバランス）.....131
Wi-Fi/NFC.....283

あ

アイカップ.....271
アイピースカバー.....33, 271
赤目緩和.....106
明かりや状況にあわせて撮影.....80
明るさ（露出）.....116
　固定する（AEロック）.....120
　自動的に変える（AEB）.....118, 260
　調整する（露出補正）.....116
　測り方（測光モード）.....115
アクセサリーシュー.....26, 272
アクセスランプ.....38
アスペクト比.....146
後幕シンクロ.....200
イメージゾーン.....30

色あい.....71, 127
色温度.....131
色空間（色再現範囲）.....137
色の濃さ.....127
印刷.....241
　印刷効果.....246
　印刷指定（DPOF）.....251
　傾き（角度）補正.....249
　トリミング.....249
　フォトブック指定.....255
　用紙設定.....244
　レイアウト.....245
インデックス表示.....208
ウィンドカット.....179
液晶モニター.....24
　明るさ調整.....185
　画像の再生.....83, 207
　撮影機能画面の色.....197
　撮影機能の設定状態.....28, 54
　メニュー表示.....50, 280
エラー表示.....298
エリア（地域）.....41
応用撮影ゾーン.....30
応用 マーク.....8
オートパワーオフ.....39, 185
オートフォーカス.....97, 99
オートライティング
オプティマイザ.....57, 123
オートリセット.....189
お気に入りマーク.....212
温度警告.....157, 181
音量（動画再生）.....219

か

カード.....25, 36, 52
　SDスピードクラス.....5
　入れ忘れ防止.....184
　書き込み禁止.....36
　初期化（フォーマット）.....52
　トラブル.....38, 53
　物理フォーマット.....53
カードなしレリーズ.....184
階調優先.....177, 263
回転（画像）.....192, 211, 249
外部ストロボ.....272
　カスタム機能設定.....201
拡大表示.....156, 210
拡張子.....189
各部の名称.....26
カスタム機能.....258
カスタムホワイトバランス.....133
画像
　インデックス表示.....208
　拡大表示.....210
　画像特性（ピクチャースタイル）.....95, 126, 129
　再生.....83, 207
　撮影情報.....232
　自動回転.....192
　自動再生.....222
　ジャンプ表示（画像送り）.....209
　手動回転.....211
　消去.....230
　スライドショー.....222
　テレビで見る.....216, 226
　ハイライト警告.....234
　番号.....188
　ヒストグラム.....234
　表示時間.....184
　保護（プロテクト）.....228
　レーティング.....212
画素数.....88
家庭用電源.....270

カメラ
構え方 46
設定初期化 194
設定内容表示 193
かんたん撮影ゾーン 30
感度 →ISO感度
機能ガイド 55
強制リセット 189
魚眼風 238
記録画質 88
近接撮影 69
クイックAF 154
クイック設定 74
クリーニング（撮像素子） 204
クリエイティブオート 64
クリエイティブフィルター 236
グリッド 145, 179
クローズアップ 69
ケーブル ...3, 216, 226, 242, 278, 317
言語の切り換え 43
高感度撮影時のノイズ低減 263
高輝度側・階調優先 177, 263
合焦マーク 58
故障 286
ゴミの写り込み防止 202, 204
コントラスト 127

さ

再生 83, 207
先幕シンクロ 200
撮影画角 45
撮影画像の確認時間 184
撮影可能枚数 40, 88, 141
撮影機能の設定状態 28, 54
撮影情報表示 232
撮影モード 30
Av（絞り優先AE） 110
M（マニュアル露出） 113
P（プログラムAE） 86
Tv（シャッター優先AE） 108
（シーンインテリジェントオート） 58
（ストロボ発光禁止） 63
（クリエイティブオート） 64
（ポートレート） 67
（風景） 68
（クローズアップ） 69
（スポーツ） 70
（料理） 71
（夜景ポートレート） 72
撮影モードで設定できる機能 276
撮像素子の清掃 204
サマータイム 42
三脚ねじ穴 27
ジオラマ風 238
システム図 278
自動再生 222
自動選択（AF） 99
視度調整 46
絞り込み 266
絞り優先AE 110
シャープネス 127
シャッターボタン 47
シャッター優先AE 108
ジャンプ表示 209
充電 34
周辺光量補正 124
手動ピント合わせ 101, 156
消去（画像） 230
初期状態に戻す 194

白黒写真.....76, 96, 128
白とび.....234
シンクロ設定.....200
シンクロ接点.....26
深度確認.....112
ストラップ.....33
ストロボ
FEロック.....121
赤目緩和.....106
外部ストロボ.....272
カスタム機能.....201
撮影できる距離.....105
シンクロ（先幕／後幕）.....200
ストロボ制御.....198
調光補正.....117
同調速度.....261, 273
内蔵ストロボ.....104
発光禁止.....63, 66, 75
マニュアル発光.....200
スピーカー.....218
スポーツ.....70
スモール（記録画質）.....28, 240
スライドショー.....222
設定初期化.....194
セピア調（モノクロ写真）.....76, 128
セルフタイマー.....103
全押し.....47
センサークリーニング.....204
全自動
（シーンインテリジェントオート）.....58
測距点（AFフレーム）.....99
測距点自動選択.....99
測光タイマー.....147, 179
測光モード.....115
ソフトフォーカス.....238

た

ダイレクトプリント.....242
ダストデリートデータ.....202
縦位置画像回転表示.....192
チャージャー.....31, 34
中央部重点平均測光.....115
忠実設定.....96
調光補正.....117
長時間露光.....114
調色（モノクロ写真）.....128
長秒時露光のノイズ低減.....262
著作権情報.....190
デジタル端子.....242, 317
手ブレ.....46
テレビで見る.....216, 226
電源
オートパワーオフ.....185
家庭用電源.....270
撮影可能枚数.....40, 88, 141
充電.....34
電池残量.....40
電子音.....184
電子ダイヤル.....26, 107
電池.....34, 36, 40
トイカメラ風.....238
動画.....159
AF方式.....167, 176
ウィンドカット.....179
記録時間.....169
クイック設定.....167
グリッド.....179
再生.....218
自動露出.....160
手動ピント合わせ.....160
情報表示.....164

前後カット 220
測光タイマー 179
楽しみ方 216
テレビで見る 216, 226
動画記録サイズ 168
ビデオスナップ 170
ビデオスナップアルバム 170
ファイルサイズ 169
フレームレート 168
編集 220
マニュアル露出 162
録音 178
動体予測（AIサーボ） 98
通し番号 188
時計 41
ドライブ/
セルフタイマー 28, 66, 102, 103

な

内蔵ストロボ 104
機能設定 199
ニュートラル 96
任意選択（AF） 99
ノイズ低減
高感度 263
長秒時 262
ノーマル（記録画質） 28

は

バースト枚数 89, 90
ハイビジョン（HD） 168, 216
ハイライト警告 234
発光モード 200
バッテリー 34, 36, 40
バルブ撮影 114
半押し 47
汎用ストロボ 273
ピクチャースタイル 95, 126, 129
ピクトブリッジ 241
被写界深度確認 112
ヒストグラム（輝度／RGB） 234
日付／時刻 41
ビデオスナップ 170
ビデオスナップアルバム 170
ビデオ方式 168, 179
評価測光 115
ピント合わせ
AF動作 97
AFの苦手な被写体 101, 152
AFフレーム選択 99
AF方式 148, 176
AF補助光 100, 264
構図変更 61
手動ピント合わせ 101, 156
電子音 184
ピンボケ 46, 101, 152
ファームウェア 283
ファイナルイメージ
シミュレーション 143, 166
ファイルサイズ 89, 169, 232
ファイル名 188
ファイン（記録画質） 28
ファインダー 29
視度調整 46
フィルター効果 128
風景 68, 96
フォーカスモード
スイッチ 44, 101, 156
フォーカスロック 61
フォーマット（カード初期化） 52
フォトブック指定 255
フォルダ作成／選択 186

付属品.....3
部分測光.....115
ブラケティング.....118, 136
プリント.....241
フルハイビジョン
(Full HD).....168, 216
フレームレート.....168
プログラムAE.....86
プログラムシフト.....87
プロテクト（画像の保護）.....228
雰囲気を選んで撮影.....76
ポートレート.....67, 95
ホワイトバランス.....131
　カスタム.....134
　ブラケティング.....136
　雰囲気優先（AWB）.....132
　補正.....135
　ホワイト優先（AWBW）.....132
　マニュアル.....133

ま

マイク.....160
マイメニュー.....267
マクロ撮影.....69
マニュアルフォーカス
(MF).....101, 156
マニュアル露出.....113, 162
ミドル（記録画質）.....28
メニュー.....50
　機能一覧.....280
　設定操作.....51
　マイメニュー.....267
メモリーカード　→カード
モードダイヤル.....30
モノクロ.....76, 96, 128

や

夜景.....68, 72
夜景ポートレート.....72
用紙設定（印刷）.....244

ら

ラージ（記録画質）.....28
ライブビュー撮影.....62, 139
　アスペクト比.....146
　顔優先ライブAF.....149
　クイックAF.....154
　クイック設定.....144
　グリッド.....145
　撮影可能枚数.....141
　手動ピント合わせ.....101, 156
　情報表示.....142
　測光タイマー.....147
　ライブ1点AF.....148
ラフモノクロ.....238
リサイズ.....239
リモートスイッチ.....271
料理.....71
レーティング.....212
レンズ.....44
　周辺光量補正.....124
　ロック解除.....45
連続撮影可能枚数.....89, 90
連続撮影（連写）.....102
ロウ.....28, 89, 91
露出設定ステップ.....260
露出補正.....116

わ

ワンショットAF.....97

MEMO

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ：canon.jp/eos
EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1月 1 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は2015年12月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。
Li-ion

CPX-J173-000
© CANON INC. 2015